

ANNUAL REPORT
OF THE
NVAL

Annual Report of the National Veterinary Assay Laboratory

No. 62, 2025

農 林 水 産 省
動 物 医 薬 品 検 査 所 年 報
令 和 6 年 度

PUBLISHED BY THE NATIONAL VETERINARY ASSAY LABORATORY
MINISTRY OF AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES
2-1-22 KANNONDAI, TSUKUBA-SHI, IBARAKI 305-8535, JAPAN

広 報 委 員 会 委 員

永 田 知 史 (広報委員長)

宇 野 美 鈴

安 東 優

小野寺 美 羽

一 戸 夏 美

松 永 渡 羽

原 田 咲

磯 部 哲 志

宅 原 真 理 (事 務 局)

令和 8 年 3 月 15 日 発行

農 林 水 産 省 動 物 医 薬 品 検 査 所

茨城県つくば市観音台 2 丁目 1 - 2 2

郵便番号 305-8535

電 話 (029) 811-6380

U R L ; <https://www.maff.go.jp/nval/>

E - m a i l ; nval_kikakuchouseika@maff.go.jp

ま え が き

動物薬事行政や動物用医薬品の製造販売に携わる皆様には、日頃より動物用医薬品等の安定供給と動物衛生の向上にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

令和7年4月から10月までの半年間、大阪・関西万博（Expo2025）が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催されました。世界150以上の国と地域、国際機関が参加し、大阪の夢洲には、最先端の科学技術、環境・エネルギー、医療や食など未来の社会を体感できるパビリオンが集結しました。特に、人類の未来に貢献する実験場として、カーボンニュートラルやデジタル社会の実現に向けた取り組みが紹介されたほか、伝統文化や食文化の魅力を体感できる企画が展開されるなど、未来への希望と共創を象徴するイベントとして、多くの来場者を魅了しました。

農林水産分野では、令和6年に25年ぶりに改正された農業政策の憲法ともいえる食料・農業・農村基本法に基づき、令和7年4月に新たな「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されました。この計画は、食料安全保障の確立、農業の持続的発展、農村の活性化を柱に、日本の食と農の未来を支えるものです。とりわけ家畜衛生の分野では、アフリカ豚熱、口蹄疫等の越境性疾病や、高病原性鳥インフルエンザなど重大な家畜伝染病について、日常的な飼養衛生管理の点検・改善を徹底するとともに、万が一の発生時には早期通報や迅速な摘発、まん延防止措置の実施体制を強化することが盛り込まれています。さらに、薬剤耐性（AMR）対策では、動物用抗菌薬の適正使用・慎重使用に加え、現場ニーズに即したワクチンや代替薬へのアクセス向上の推進、乳房炎や肺炎など慢性疾病も対象として産学官が連携したワクチン開発・安定供給の促進、飼養衛生管理の指導強化を進めることとされています。

また、令和6年11月に策定された「動物用ワクチン戦略中間取りまとめ」を踏まえ、令和7年3月には、産学官連携の場としてVMC（Veterinary Medicine Industry-Academia-Government Collaboration）プラットフォームが立ち上げられました。プラットフォームでは、動物用ワクチン戦略の目標達成に向けて、産業動物用ワクチンの安定的な確保・供給、現場のニーズに即した新たなワクチンの開発支援、承認審査の最適化などをテーマとするワーキンググループが設置され、議論が開始されています。さらに、令和7年6月に公表された「豚熱清浄化ロードマップ」を踏まえ、豚熱マーカーワクチンの早期実用化に向けて、製造、供給に関する課題等についてワクチンメーカーとの検討も進められています。

当検査所は、昭和31年6月に農林省の独立官署として誕生し、昭和34年4月に東京都北多摩郡国分寺町戸倉新田（現・国分寺市戸倉）に庁舎が完成し、67年間にわたり国分寺市で歴史を積み重ねてきました。このような中、昭和40年に決定された東京都都市計画道路の計画変更（道路幅拡幅）を受け、平成31年4月から、茨城県つくば市への全面移転計画に着手し、令和5年度からつくば新庁舎の建設が開始され、令和7年3月に竣工しました。5月から順次引越作業を進め、6月からは一部の業務がつくば庁舎で開始し、9月にはすべての業務の移転が完了しました。職員一同、気持ちも新たに、動物薬事行政及び家畜衛生行政の更なる発展に貢献してまいります。

令和6年度の年報をご高覧いただき、皆様からの忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。当検査所の使命は「動物の命と食の安全を守る」ことにあります。この使命を胸に、職員一同一層の努力を重ね、次号の年報においてより多くの成果をご報告できるよう努めてまいります。

令和8年3月
動物医薬品検査所長

荻窪 恭明

動物医薬品検査所年報

No.62

令和6年度

目次

まえがき

業務概要編

動物医薬品検査所の業務概要

1. 概況	3
2. 品質確保等の業務	4
3. 承認審査等業務	8
4. 畜水産物の安全性の確保と危機管理	10
5. 動物用医薬品等の販売量（令和5年）	14

施設・予算に関する事項

1. 施設	15
2. 予算等	17

組織と業務等に関する事項

1. 機構と職員数	18
2. 職員と業務分担（令和7年3月31日現在）	19
3. 定員	23
4. 職員の異動	23
5. 受賞者	25
6. 人材育成と業務能率向上の取組	25

企画連絡に関する事項

I 品質等の確保

1. 令和6年度検定・検査関係告示等の制定、改定等	26
2. 令和4～令和6年度標準製剤等の配布本数	28
3. 令和5、令和6年度検定申請受付件数及び合格数量	29
4. 過去4年間の検定成績	37
5. 令和6年度に承認・承認事項変更承認された検定対象の生物学的製剤	46

6. 令和6年度に承認された検定対象外の生物学的製剤	46
7. ワクチンの総品目数におけるシードロット製剤として承認された品目数	47
8. 令和6年度検査命令による検査成績	47
9. 令和6年度動物用医薬品の収去検査結果	47
10. 動物用医薬品依頼試験検査受付件数	48

II 承認審査及びその関連

1. 令和6年度新動物用医薬品の製造販売承認一覧	49
2. 令和6年度動物用医療機器の製造販売承認一覧	50
3. 令和6年度再生医療等製品の製造販売承認一覧	50
4. 動物用医薬品等の事項変更承認件数	50
5. 動物用医薬品等の軽微変更届受付件数	50
6. 令和6年度登録原薬等一覧	51
7. 令和6年度動物用医薬品等の信頼性基準（GLP、GCP及びGPSP）適合性 調査実施状況	51
8. 令和6年度動物用医薬品等のGMP適合性調査実施状況	52
9. 令和6年度治験計画届出状況	52
10. 令和6年度動物用医薬品の再審査実施状況	53
11. 令和7年度中に再審査期間が終了する動物用医薬品	54
12. 令和6年度動物用医薬品の再評価業務	54
13. 令和2～令和6年度動物用医薬品等の承認相談受付状況	55
14. 令和6年度動物用医薬品等の副作用報告件数	55
15. 令和6年度薬事審議会動物用医薬品等部会及び関連調査会の開催	55

III 畜水産物の安全性確保と危機管理対策

1. 令和6年度備蓄用ワクチン等の検査実施状況	56
2. 令和6年度動物用医薬品の使用に伴う事故防止・被害対応業務の実施状況	56

IV その他

1. 令和6年度調査研究発表等	57
2. 令和6年度技術研修	60
3. 令和6年度見学（主なもの、視察を含む）	61
4. 外部媒体を使用した広報活動	62

資料編

1. 沿革 65
2. VICH（動物用医薬品の承認審査資料の調和に関する国際協力）について
（その 29） 67

学術研究報告編

[技術資料]

- 野外で想定される使用条件での A 型インフルエンザ診断用酵素標識抗体反応キット
の検出への影響 105

[プロジェクト研究終了報告]

- 豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン及び豚サーコウイルス感染症不活化ワクチンの
豚熱生ワクチンの有効性に及ぼす影響の検討 111
- 動物分野における細菌の全ゲノム解析を用いた分子疫学的研究 121

業務概要編

動物医薬品検査所の業務概要

1. 概況

当所の業務は、①動物用医薬品等の品質確保、②承認審査等、③危機管理対策の充実と食の安全・信頼の確保及び④検定・検査技術の向上と国際化対応の4つに大別される。令和6年度の主な業務概要は以下のとおりである。

① 動物用医薬品等の品質確保

生物学的製剤の検定については、345件が検定申請され、不合格は0件であった。検定対象外の動物用医薬品の収去検査については、国及び県が収去した12品目を検査し、不合格は0件、要指導は2件であった。また、動物用医薬品メーカーが行う品質検査その他各種試験の精度を高水準に保つための標準製剤等については、208品を配布した。

② 承認審査等

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下「医薬品医療機器等法」という。）に基づく動物用医薬品等の製造販売承認に係る審査では、新動物用生物学的製剤では、豚のアクチノバシラス・プルロニューモニエ血清15型菌感染症による豚胸膜肺炎に対するワクチンなど8品目を承認した。新動物用一般医薬品では、スズキ目魚類の麻酔剤など7品目、新動物用抗菌性物質製剤では2品目、医療機器では後発医療機器として5品目を承認した。また、新動物用再生医療等製品の承認はなかった。動物用医薬品等の製造管理及び品質管理基準（GMP）に係る適合性調査については、書面調査を345件、適合性調査に係る実地調査を1件（1施設）及び区分適合性調査に係る実地調査を2件（2施設）実施した。

③ 危機管理対策の充実と食の安全・信頼の確保

越境性動物疾病の対応としては、国家備蓄される鳥インフルエンザ（油性アジュバント加）不活化ワクチン1ロットについて検定し、合格した。また、備蓄用口蹄疫不活化予防液（3価）2ロットについて国内検査指針に基づき検査し、適合を確認した。

国内防疫への貢献としては、豚熱生ワクチン及びELISAキット（令和6年度それぞれ39ロット及び4ロット）の国家検定を円滑に実施した。また、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）については、令和6年10月に北海道、その6日後に千葉県でH5N1亜型HPAIが発生し、発生農場から分離されたウイルスについて、鳥インフルエンザ備蓄ワクチンの有効性を確認した。また、HPAI発生県での農場防疫作業派遣要請に応じ職員の派遣を行ったほか、動物衛生研究部門が行う緊急病性鑑定業務を支援するため、令和7年1月6日から31日まで及び令和7年3月3日から31日まで職員を派遣した。

④ 検定・検査技術の向上と国際化対応

業務に係る調査研究の成果発表として、学術雑誌において6報報告し、学術集会において10報発表した。他、技術普及等を目的として誌上報告を12報、口頭発表等を29件行った。技術研修としては都道府県職員を対象とした研修会を5回開催し、学生を対象とした実習等を1回開催した。

薬剤耐性（AMR）問題は、国連総会やG7などでも常に取り上げられる世界的な最重要課題の一つである。当所は農林水産分野の薬剤耐性に関する基幹検査機関として、AMR対策の推進を図るために策定された行動計画である「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2016-2020）」に基づき、動物由来薬剤耐性菌モニタリング（JVARM）を実施し、愛玩動物由来の耐性菌の調査や人用医薬品の愛玩動物への使用に関する調査を開始するなど充実を図ってきた。令和5年には、「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）」（以下「第2期アクションプラン」という。）が策定され、当所は引き続き動物分野における中心的な役割を担う基幹検査機関とされている。令和6年度

は、第2期アクションプランに基づき、JVARMのモニタリングを継続実施した他、臨床現場における適正な抗菌剤選択のための薬剤感受性の判定に資する情報等の発信、ゲノムデータベース（J-VEG）を活用したゲノムデータの蓄積・解析、人や食品由来株との性状比較に関する国立感染症研究所等との共同研究、都道府県職員を対象とした研修などのワンヘルスの取組等を引き続き推進した。

当所は、平成8（1996）年に動物用医薬品の承認の国際ハーモナイゼーションのために日米EUの三極の規制当局及び動物用医薬品業界団体をメンバーとして組織された「動物用医薬品の承認審査資料の調和に関する国際協力（VICH：International Cooperation on Harmonisation of Technical Requirements for Veterinary Medicinal Products）」において、日本の規制当局として中心的な役割を果たしている。令和6年度はオランダ アムステルダムで開催された運営委員会（Steering Committee：SC）会合及びVICH活動を新興国および発展途上国に広げる活動であるVICHフォーラム会合に出席した。また、各種専門家作業部会（Expert Working Group：EWG）では各EWG別で開催された会議に出席し、必要な対応を行った。このうち品質EWG及び生物学的製剤EWGでは座長を担当した。

平成22（2010）年より当所は、「アジアにおける家畜疾病の診断及び防疫と動物用医薬品評価（Diagnosis and Control of Animal Diseases and Related Veterinary Products Assessment in Asia）」の分野でWOAH コラボレーティングセンターに認定されており、アジア地域の動物用医薬品の規制能力の向上を図ることを目的として、各国担当官の参加を募ってのワークショップや短期研修会の開催、アジアの動物薬事関連会議への講師派遣を実施している。令和6年度は、薬剤耐性（AMR）に関する技術研修会を開催し、アジア太平洋5か国・地域からAMR担当者が参加した。

2. 品質確保等の業務

（1）製剤基準案の作成

医薬品医療機器等法第42条の規定に基づく動物用医薬品等の基準として、動物用生物学的製剤基準（平成14年農林水産省告示第1567号）及び動物用生物由来原料基準（平成15年農林水産省告示第1091号）が定められている。また、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行令（昭和36年政令第11号）第60条に基づく基準として動物用生物学的製剤検定基準（平成14年農林水産省告示第1568号）が定められている。

当所は、動物用医薬品等の有効性・安全性を確保するため、所要の試験を実施するなど、最新の技術及び知見をもって基準内容を見直し、新たな項目設定や一部改正案を作成している。

（2）検査に必要な標準製剤等の配布

動物用生物学的製剤の品質検査その他各種試験の精度を高水準に保つため、標準製剤等524種類（標準製剤15種類、菌株及びウイルス株（家畜衛生微生物株を除く。）19種類、家畜衛生微生物株490種類）を確保し、配布している（動物医薬品検査所標準製剤等配布規程（昭和45年農林省告示第637号））。

動物用抗生物質医薬品基準を廃止する件（平成28年農林水産省告示第93号）が公布され、動物用抗生物質医薬品基準（平成24年農林水産省告示2165号）が平成28年3月31日をもって廃止されたことに伴い、動物医薬品検査所標準製剤等配布規程も改正され（動物医薬品検査所標準製剤等配布規程の一部を改正する件（平成28年農林水産省告示第94号））、常用標準抗生物質の配布を取りやめた。

令和6年度は、標準製剤等をのべ208品配布した。

(3) 品質検査

ア 生物学的製剤の検定

動物用医薬品のうち、生物学的製剤（血清、ワクチン、家畜防疫上重要な疾病の診断薬）が、検定の対象とされている。令和6年度は、345件申請され、2件が中止となっている。不合格、検定中止となった製剤については、検査結果を都道府県に通知する際に、その原因究明、再発防止の措置に関する助言指導を行っている。

なおシードロットシステムの導入により生物学的製剤のうち令和7年3月末までに198品目のシードロット製剤が、検定対象から除外されている。

検定に合格した生物学的製剤については、医薬品を納めた容器又は被包に「国家検定合格」の文字を付すこととされている。

イ 検査命令による品質検査

動物用シードロット製剤検査命令実施要領及び動物用血液型判定用抗体検査命令実施要領に基づく検査を実施している。令和6年度は該当製剤がなかった。

ウ 収去医薬品の検査

検定対象外の動物用医薬品等については、立入検査の際に収去した製品を検査することによって品質の確保を図っている。令和6年度は7カ所の製造所等に立ち入り、国が医薬品5件を収去、県からの収去品7件と合わせて12件を検査し、10件が合格、2件が要指導であった。

また、当所による収去検査のほか、消費・安全対策交付金事業により、21府県が取り組んだ収去検査は、30件実施され、全て合格であった。

エ 動物用医薬品等の依頼試験

動物用医薬品製造販売業者等からの依頼を受け、承認申請予定動物用生物学的製剤と既承認製剤との同等性確認試験、規格検査法の確認、外国向け公的機関品質証明書発行のための検査を実施している。また、監視指導業務の一環として行政対応による検査を実施している。

令和6年度は生物学的製剤の同等性確認試験が4件申請されている。

(4) 検査の信頼性確保の取組

当所で行う検査の品質と信頼性の確保を図るため、検査手順などを文書化した標準作業手順書(SOP)を定め、定められた手順の遵守や検査記録の確実な作成・保管等に取り組んでいる。

また、これらの取組に加え、検査所として正確な検査結果を提供する能力があるか第三者の評価を受け、平成29年3月に試験所認定制度の国際規格であるISO/IEC17025:2005の認定を動物用生物学的製剤に対する無菌試験（細菌及び真菌の否定）において、平成31年2月に乳中の残留セファゾリン分析試験において取得した。また、ISO/IEC17025が2017年に改訂されたことから、移行審査を経て令和2年にISO/IEC17025:2017の認定を取得し令和5年度まで認定を継続した。令和7年度につくば市へ庁舎が移転することにより、検査実施体制に大幅な変更が生じることから、令和6年度は一時的にISO/IEC17025:2017の認定を解除した。

外部精度管理試験の実施により、マネジメントシステムが（検査の技術的能力も含めて）機能しているかのPDCAサイクルをチェックするため、令和6年度は英国動植物衛生庁（APHA）が実施する精度管理試験（オーエスキー病血清学的検査及びマイコプラズマハイオニューモニエPCR検査）及び英国食料環境研究庁が主催する技能試験（牛乳汁中におけるβラクタム系抗生物質の残留試験）に参加し、当所の技術レベルが確保されていることを確認した。

(5) 適正な動物実験実施のための取組

当所では、検定・検査及び試験・研究のために様々な動物実験を実施しており、平成31年に外部機関（（一財）日本医薬情報センター）による動物実験実施機関としての適合性認証を受けた。令和6年度（令和7年1月）に同センターによる再評価を受け認証が継続された。引き続き当所における動物実験の実施方法及び実験動物の飼養環境については、再評価の指摘及び最新の動物実験に関する情報等を参考に改善に努めることとした。

(6) 動物用生物学的製剤の検定における製造・試験記録等要約書審査制度対応業務

動物用生物学的製剤については、製造工程全体に渡る製造管理・品質管理が浸透し、国家検定の不合格事例はほとんど認められなくなったことから、国家検定制度の運用の合理化を図るため、令和元年9月より国家検定の申請の際に、製造販売業者が添付する製造工程全体に渡る記録等を要約した書類（製造・試験記録等要約書、以下「要約書」という。）の書面審査を行う制度（要約書審査制度）を導入した。3年間の経過措置期間の後、令和4年9月に完全移行しており、これに伴い、国家検定におけるワクチンの現物を用いた有効性等の確認のための試験は、家畜衛生上重要な動物用生物学的製剤のみに限定し、その他の疾病を対象とするワクチンの国家検定は、書面審査により実施している。

本審査制度に用いる要約書様式については、製造販売業者の要約書様式の作成または変更の申請に基づき、当所が品目ごとに、要約書様式を作成・変更の上、申請者に通知している。令和6年度は、7品目の作成及び43品目の変更について通知した。

(7) 検査法の開発・改良のための調査・研究

ア 各領域における調査・研究

新たに開発された製剤の検査法の確立、検査・検定の簡素化、判定結果の信頼性の維持・向上、動物用医薬品の適正使用等のための調査・研究を、各領域において実施している。

イ プロジェクト研究等

行政課題に対応し、行政施策に反映するため、業務プロジェクトとして、

○動物薬病理研修会の継続的開催（令和4～令和6年度）

また、領域の枠を超えた研究であるプロジェクト研究として、

○薬剤耐性（AMR）対策アクションプランに基づく戦略及び取組の達成に向けた対応－動物分野における薬剤耐性菌の動向調査の実施・抗菌剤の慎重使用の徹底・ワンヘルスアプローチの推進－（令和4～令和7年度）

○豚熱生ワクチンの有効性に関する研究（令和5～令和6年度）

○動物用幹細胞製品の安全性確保のための品質管理手法に関する研究（令和6～令和8年度）

○探針エレクトロスプレーイオン化質量分析装置（PESI/MS/MS）を用いた迅速かつ簡便な畜産物中の残留動物用医薬品分析法の開発（令和6～7年度）

を実施した。これらの成果は、関係学会、学術雑誌等に公表し、新しい検査法の公定化等に活用されている。

なお、これらのプロジェクト研究等については、定期的に所内で評価を行うほか、外部専門家から構成されるプロジェクト研究等評価委員会を開催し、より客観的な評価を行っている。

(8) 技術講習

動物用医薬品の検査等に必要な技術の伝達及び高位平準化を図るため、各都道府県職員に対する研

修会（動物用医薬品の危機管理対策に関する研修会：薬剤耐性菌の発現状況調査、動物用医薬品の品質確保検査）を開催して薬事監視の充実・強化に努めている。

（9）WOAHコラボレーティングセンター（WOAH Collaborating Center）としての活動

WOAH コラボレーティングセンター（以下「WOAH-CC」という。）とは、WOAH（World Organisation for Animal Health；国際獣疫事務局、2022年に略称を OIE から WOAH に変更）が動物衛生に関連する科学的知見と技術支援を得るために認定した検査・研究機関である。認定機関は、最新の科学的知見と技術で WOAH を支援し、科学的根拠に基づいた WOAH の幅広い活動を支えている。当所と国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門は、共同で「アジアにおける家畜疾病の診断及び防疫と動物用医薬品評価（Diagnosis and Control of Animal Diseases and Related Veterinary Products Assessment in Asia）」を協力分野とする WOAH-CC として平成 22 年 5 月より活動している。

平成 28 年からは WOAH-CC 活動の一環として、アジア諸国の獣医療分野の政府機関担当者を対象に、薬剤耐性（AMR）をテーマとした研修を実施しており、これまで短期研修及び長期研修を実施してきた。また、WOAH の主催するアジア太平洋地域の動物薬事担当者向けのセミナーにも参加し、講師やパネリストを務めている。令和 6 年度は、11 月 11 日～11 月 15 日にかけてアジア・太平洋地域を対象とした AMR に関する短期研修会（Regional Short-term Training on Antimicrobial Resistance）を当所で開催した。昨年に続き対面開催となった今回の研修では、5 か国・地域（シンガポール、スリランカ、台湾、バヌアツ及びフィリピン）から参加した 5 名を対象に、我が国における AMR サーベイランスシステムについて、抗菌薬使用量データの収集・分析・報告の方法、感受性試験（ディスク拡散法、寒天希釈法等）の実施方法、全ゲノム解析の研修を実施し、薬剤耐性に関連する技術伝達及び情報共有を行った。加えて、AMR に関連する機関（WOAH アジア・太平洋地域事務所、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門、農林水産省本省）を訪問した。

また、規格外及び偽造動物用医薬品に関するワークショップ（1st Workshop on Substandard and Falsified Veterinary Products (SFVP) and WOAH pilot Veterinary Monitoring and Surveillance System for SFVP (WOAH - VSAFE) for WOAH Focal Points for Veterinary Products and Regulators of Veterinary Medicinal Products in Asia and Pacific）に出席し、動物用医薬品の品質維持における日本の取り組みについて発表した。当ワークショップへの参加後、日本は WOAH - VSAFE に加入した。



3. 承認審査等業務

(1) 薬事審議会※の開催事務

医薬品医療機器等法第14条第11項等の規定に基づき、新医薬品等の製造販売を承認するときは、あらかじめ薬事審議会の意見を聴くこととなっており、動物用医薬品等の承認にあたっては、同審議会動物用医薬品等部会及び同部会に付属する7つの調査会で調査審議が行われている。当所は、平成19年度から同部会及び調査会（水産用医薬品調査会を除く。）の開催事務を行っており、令和6年度は4回の部会及び16回の調査会を開催した。（※令和6年4月に薬事・食品衛生審議会から食品衛生分科会が外れ、「薬事・食品衛生審議会」は「薬事審議会」に名称変更された。）

(2) 新動物用医薬品等の承認状況

令和6年度に承認された新動物用生物学的製剤は、豚用ワクチン2品目、犬用ワクチン2品目、魚類用ワクチン2品目、牛用体外診断用医薬品1品目、豚用体外診断用医薬品1品目であった。新動物用一般医薬品としては、牛用食欲不振改善剤1品目、魚類用麻酔剤1品目、犬用嘔吐誘発剤1品目、犬用アレルギー皮膚炎等の緩和剤4品目及び犬用体外診断用医薬品1品目が承認された。新動物用抗菌性物質製剤としては、牛用抗菌剤1品目、豚用抗菌剤1品目が承認された。医療機器については、新動物用医療機器の承認はなく、後発動物用医療機器として、閉鎖循環式麻酔システムなど計5品目が承認された。新再生医療等製品の承認はなかった。

(3) 承認申請資料等の信頼性基準（GLP、GCP及びGPSP）適合性調査

医薬品医療機器等法に基づき、動物用医薬品等の承認申請書、再審査申請書等に添付される資料は、農林水産大臣の定める基準に従って収集され、かつ、作成されたものでなければならないとされている。この農林水産大臣の定める基準とは、動物用医薬品等取締規則（平成16年農林水産省令第107号）に規定される「一般基準」、「安全性に関する非臨床試験の実施の基準（GLP）」、「臨床試験の実施の基準（GCP）」及び「製造販売後の調査及び試験の実施の基準（GPSP）」であり、これらに従って承認申請書等の添付資料が収集、作成されたものであるか否かについての書面調査及び実地調査を行っている。

令和6年度は、GLP実地調査を1施設、GCP実地調査を3施設実施し、書面調査及び実地調査を終了した29件の調査結果を通知した。

(4) 動物用医薬品等のGMP適合性調査

医薬品医療機器等法第14条第7項及び同条第15項の規定、同法第23条の2の5第7項及び同条第15項の規定並びに同法第23条の25第6項及び同条第11項の規定により、動物用医薬品等の承認時及び承認後5年ごとに、製造所における製造管理及び品質管理の方法が製造管理及び品質管理に関する省令（GMP省令）に適合しているかについての適合性調査を書面調査又は実地調査により行っている。また、医薬品医療機器等法第80条第1項から第3項の規定により、輸出用の医薬品等についても適合性調査を行っている。

令和6年度にはGMP書面調査を動物用医薬品321、動物用医療機器15件及び動物用体外診断用医薬品9件、GMP実地調査を1件（1施設）実施した。動物用再生医療等製品については申請がなかった。

さらに、令和元年の医薬品医療機器等法改正により、従来のGMP適合性調査に加え、同法第14条の7の2第4項、同法第23条の2の10の2第4項及び同法第23条の32の2第4項に基づく「変

更計画適合性確認」並びに同法第14条の2第2項に基づく「区分適合性調査」の制度が新設され、令和3年8月1日に施行された。令和6年度には動物用医薬品の区分適合性調査を2件実施した。

(5) 動物用医薬品等の治験計画の調査

治験とは、動物用医薬品等の承認申請時に添付される資料のうち、臨床試験の試験成績に関する資料の収集を目的とする試験の実施である。動物用医薬品等取締規則第208条(薬物)、第211条(機械器具等)及び第212条の2(加工細胞等)により、治験の計画の届出を要するものが規定されている。治験は、野外で未承認の動物用医薬品等が使用されることになるため、当所では当該届出に係る治験の計画に関し、保健衛生上の危惧の発生を防止するために必要な調査を行っており、そのため、治験計画届出をした日から起算して30日を経過した後でなければ治験を実施してはならないとされている。令和6年度に届出られた治験計画は、生物学的製剤が1件、一般医薬品・抗菌性物質製剤が4件、その他(バイオテクノロジーや遺伝子組換え技術を応用した動物用医薬品等)が1件であった。また、治験実施施設の追加や治験実施期間の延長等による治験計画の変更届出については、生物学的製剤が4件、一般医薬品・抗菌性物質製剤が19件、バイオテクノロジーや遺伝子組換え技術を応用した動物用医薬品等は届出がなかった。

(6) 動物用医薬品等の再審査

動物用医薬品等は、製造販売承認申請等に際して収集された臨床試験成績からその有効性及び安全性を確認し承認されるが、そのうち、新規性が高い製品は、市販後もある一定の期間、使用成績等調査を行い、その結果から、医薬品医療機器等法第14条の4第1項及び同法第23条の29第1項の規定に基づき、再度、製剤の有効性及び安全性について審査を行っている。

さらに、再審査申請書に添付される資料については、動物用医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に関する省令(GPSP省令)に従って収集、作成された信頼性のあるものであることを確認するため、信頼性基準適合性調査を行っている。令和6年度は9件の再審査申請があり、12件について結果を通知した。

(7) 動物用医薬品等の再評価

再評価とは、承認を受けている動物用医薬品等の有効性及び安全性等について、最新の科学的知見に基づいて見直しを行い、有用性を評価する制度である。再評価の対象医薬品を選定するため、農林水産省(動物医薬品検査所)において、文献データベース、獣医学、薬学等の学術雑誌、諸外国政府や関係企業等から得られた有用情報等を情報源として有効性及び安全性等に関する情報を収集し、問題となる情報があれば、医薬品医療機器等法第14条の6第1項及び同法第23条の31第1項の規定に基づき、薬事・食品衛生審議会動物用医薬品再評価調査会に意見を聴き、動物用医薬品の有効性及び安全性等の確保を図っている。令和6年度は、薬事・食品衛生審議会動物用医薬品再評価調査会において1件審議され、審議された1品目について結果を通知した。

(8) 動物用医薬品等の承認相談

動物用医薬品等の開発、承認申請がより効率的に行われるよう、製造販売業者等からの製品の開発段階における相談を受けており、令和6年度は89件寄せられた。

このほか、平成25年2月より、開発中の動物用医薬品等のうち、新規性や社会的ニーズが高く、従来の資料区分に適合しないもの等(例:バイオテクノロジー応用医薬品、新作用機序医薬品等)で

あって、承認申請の見込みがあるものについて開発をサポートするため、申請前から承認まで一貫して同じチームで相談や審査に対応する、承認申請前チーム相談を開始した。令和6年度は6件について相談の対応を継続した。

(9) 動物用医薬品等の審査業務の迅速化への取組

承認審査の迅速化については長年の課題であり、承認申請書類等の詳細な見本をホームページで公開（URL: <https://www.maff.go.jp/nval/sinsei/yousiki/checkshe/index.html>）するなどの対応に加え、平成30年度から、総審査期間のうち行政側期間とそれ以外（申請者の対応期間）を明確に分けて管理し、行政側期間の目標値を設定して審査の迅速化を推進してきた。申請者との積極的な面談やコミュニケーションの実施及び所内の審査管理体制の強化等を図ることで審査期間は短期化の傾向にあり、令和4年度以降、全ての動物用医薬品等の行政側審査期間について目標値を達成している。また、令和5年度から農林水産省共通申請サービス（eMAFF）によるオンラインの承認申請等サービスが導入され、さらなる効率化に努めている。

(10) 情報提供・相談

当所ホームページは、情報セキュリティを確保した上で、当所業務に関連する通知や手続に関する情報、動物用医薬品等に関する最新の情報がわかりやすく掲載された利用しやすいホームページを目指し情報提供を行っている。（URL: <https://www.maff.go.jp/nval/>）

日本で承認された動物用医薬品等の情報及び副作用情報を提供する動物用医薬品等データベース及び副作用情報データベースは、セキュリティ維持のための改修や利用者の要望に沿った機能改修を計画的に実施し、安全に利用できるよう運用している。

ホームページでは、各業務の問い合わせ先をわかりやすく紹介するとともに、電話やメールによる相談を随時受け付けている。

令和6年度に当所ホームページの問い合わせシステムよりいただいたご意見及びお問い合わせは24件であった。

4 畜水産物の安全性の確保と危機管理

(1) 薬剤耐性菌対応検査・調査・研究

薬剤耐性（AMR）問題は、国連総会やG7・G20会合で取り上げられるなど、国際的な最重要課題の一つとなっている。我が国では、人医療・獣医療等の分野を超えた「ワンヘルス・アプローチ」の考え方の下、平成28年4月に国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議において「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン2016-2020」（以下「第1期アクションプラン」という。）が策定された。この第1期アクションプランは、COVID-19感染拡大の影響により令和4年度まで延長されたが、令和5年度から5年間の「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン2023-2027」（以下「第2期アクションプラン」という。）が開始された。第2期アクションプランにおいても「畜水産、獣医療等における動向調査・監視の強化」が主要な戦略の一つとされ、当所は引き続き動物分野における中心的役割を担う基幹検査機関として位置付けられている。また、第2期アクションプランでは、引き続き動物分野における成果指標として、健康家畜（牛、豚、鶏）由来大腸菌のテトラサイクリン、第3世代セファロスポリン及びフルオロキノロン系抗菌剤に対する耐性率を設定しているが、第1期アクションプランでは3畜種の平均耐性率を設定していたものを第2期アクションプランでは畜種ごとに耐性率の指

標が設定された。その他、第2期アクションプランでは、新たに畜産分野における動物用抗菌剤の使用量の低減等に関する目標値が設定された。

当所では、動物に抗菌剤を使用することにより選択された薬剤耐性菌が、食品を介して人に伝播され、人の細菌感染症の治療を困難にするという懸念から、平成11年度から全国の家畜保健衛生所、その他の関係機関の連携のもと「動物由来薬剤耐性菌モニタリング（Japanese Veterinary Antimicrobial Resistance Monitoring System；JVARM）」を実施している。JVARMは、薬剤耐性菌のリスク評価、リスク管理、普及啓発活動、国際的取組などの各種AMR対策に不可欠な科学的知見を提供しており、アクションプランに基づきJVARMの更なる充実・強化に取り組んでいる。基幹調査である「健康家畜由来細菌のモニタリング」については、平成28年度に農場での糞便のサンプリングからと畜場又は食鳥処理場でのサンプリングに全面移行し、健康家畜由来の食品媒介性病原細菌（サルモネラ、カンピロバクター）及び指標細菌（大腸菌、腸球菌）の全国的な薬剤耐性調査として継続的に実施している。令和5年度のこれまでの傾向や海外の状況に基づくモニタリングの実施方針の見直しにより、食中毒菌のモニタリングとして実施してきたサルモネラとカンピロバクターを隔年で実施することとし、令和6年度にはカンピロバクターのモニタリングを実施した。また、「農場の病性鑑定由来細菌（令和6年度はサルモネラ及び黄色ブドウ球菌）のモニタリング」を、農林水産省の交付金事業として拡充して実施している。交付金事業では、参加県においてディスク拡散法（以下「ディスク法」という。）を、当所において微量液体希釈法を実施し薬剤感受性を確認している。令和6年度は、6月に参加県の検査担当者を対象に当所担当者による事業の概要説明及び外部講師による抗菌剤使用量の評価方法及び酪農における抗菌剤使用量削減の取組等に関する特別講義を対面及びオンラインで実施するとともに、参加県の担当者への技術伝達の研修会を実施した。

第1期アクションプランの主要取組課題とされた「愛玩（伴侶）動物における薬剤耐性に関する動向調査・監視体制の確立」については、世界的にも先駆的な取組として平成28年度の「愛玩動物薬剤耐性（AMR）調査に関するワーキンググループ」の検討結果に基づき、平成29年度から病気の犬・猫由来の細菌（大腸菌、コアグラージェ陽性スタフィロコッカス属菌、腸球菌等）のモニタリング、平成30年度から健康な犬・猫由来の細菌（大腸菌及び腸球菌）のモニタリングをそれぞれ開始し、第2期アクションプランにおいても引き続き充実・強化することとされている。令和6年度は、これらのモニタリングを継続実施するとともに、令和5年度の成績を当所のHPに掲載した。また、愛玩動物モニタリングの実施方針についても見直しを実施し、健康な愛玩動物のモニタリングは、これまで毎年調査を実施してきたが、大腸菌及び腸球菌の耐性の傾向に大きな動きがないことが判明してきたことから、令和7年度から隔年で実施することとした。

第2期アクションプランにおいても、引き続き人医療分野との統合的ワンヘルス動向調査に向けた検討やゲノムデータベースの運用についても重要課題とされており、サルモネラや大腸菌の人、食品及び家畜由来株間での比較等の国立感染症研究所との共同研究により「厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）」との連携を強化するとともに、令和2年度に運用を開始した動物由来細菌のゲノムデータベース（Japanese Veterinary Epidemiology and Genomics；J-VEG）により、ゲノムデータの蓄積・解析を進めている。また、国内における人、動物、農業、食品及び環境の各分野における薬剤耐性菌及び抗菌剤使用量の現状及び動向を把握し、AMR対策の評価を行うとともに課題を明らかにすることを目的に2017年以降毎年取りまとめられている薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会による「薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2024；Nippon AMR One Health Report（NAOR）2024」（以下「ワンヘルス動向調査報告書」という。）がJVARMの調査結果等を含めて取りまとめられ、令和7年3月に公表されている。また、ワンヘルス動向調査報告書は令和6年度版から報告書

の内容を要約したサマリー版が作成されており、同じく令和7年3月に公表されている。

抗菌剤の慎重使用の一層の徹底に向けた取組としては、臨床現場における適切な抗菌剤選択のための重要なツールとなる薬剤感受性ディスクの抗菌剤成分ごとの入手方法やディスク法の試験手技、薬剤感受性の判定に活用できる情報に加え、コリスチンの新たな薬剤感受性試験の技術情報などを当所ホームページに掲載し、情報発信の充実を図ってきた。令和6年度は豚のアクチノバチラス・プルロニューモニエ及びストレプトコッカス・スイスについて微量液体希釈法による最小発育阻止濃度(MIC)とディスク法の阻止円径の比較解析を行い、それぞれ薬剤感受性ディスクでのブレイクポイント(BP)が設定されていない6薬剤及び5薬剤で良好な相関が得られたことを第167回日本獣医学会で発表した。また、これまで検討してきた牛及び豚のパスツレラ・ムルトシダ及び牛のマンヘミア・ヘモリチカの薬剤感受性ディスクのBPの設定について日本獣医学会誌に投稿し掲載された。

その他、食品安全委員会において牛用ホスホマイシン製剤に係る薬剤耐性菌の食品健康影響評価が実施されることに伴い、JVARMで収集された近年の牛由来大腸菌等における薬剤感受性の調査を実施し、食品安全委員会に提供するとともに、その成績を学術雑誌に投稿し掲載された。

AMRに関する国際的な取組については、これまで国際機関(WOAH、Codex等)におけるAMRに関するガイドライン等の検討に積極的に参画してきたほか、当所のWOAHコラボレーティングセンターの活動として、アジア太平洋地域のAMR対策の推進のため、令和6年11月にアジア太平洋地域のAMR担当者(5か国・地域)5名による技術研修会を実施し、薬剤耐性対策に係る技術の普及に努めた。

これまでのJVARMの結果から、第2期アクションプランにおいても成果指標となっている健康家畜由来大腸菌の耐性率については、人医療上重要な第3世代セファロスポリン及びフルオロキノロンに対しては、概ね低く維持されている一方、家畜で多く使用されているテトラサイクリンに対する耐性率は高く維持されている。また、病気の動物由来細菌は多くの抗菌剤に対して耐性率が比較的高い傾向があることから、動物の感染症に対する抗菌剤治療の有効性低下が懸念される状況もある。

このような現状も踏まえて、当所は薬剤耐性に係る動物分野の基幹検査機関として、動物分野AMRセンターを中心として、第2期アクションプランに基づき充実・強化されたJVARMにより引き続きAMR対策に不可欠な科学的知見を提供するとともに、飼養衛生管理の向上、ワクチンの活用等感染症予防の推進による抗菌剤の使用機会の低減、抗菌剤の慎重使用の更なる徹底等の「畜水産、獣医療分野」全般の薬剤耐性対策の推進に向けて取組を進めていく。

(2) 越境性動物疾病等に対する危機管理対応のための備蓄用ワクチン等の検査

令和6年度の国内備蓄用ワクチンについては、鳥インフルエンザ(油性アジュバント加)不活化ワクチン1ロットが国家検定に合格した。また、O型のManisa株、A型のIraq株及びAsial型のShamir株を混合した3価の口蹄疫不活化予防液1ロットの検査を実施し、国内検査指針に適合した。

(3) 動物用インフルエンザワクチン国内製造用株選定への対応

令和6年3月7日に開催された「第19回動物用インフルエンザワクチン国内製造用株選定委員会」において、鳥インフルエンザ(油性アジュバント加)不活化ワクチンの国内製造用株変更等に係る手順が改正された。これまで、製造用株の変更が必要と判断された場合には、野外分離株から製造用株の選定を行うこととしていたが、改正後は、当所において野外発生分離株の抗原性を検討し、検討結果を基にリバーシ・ジェネティクス法を用いて製造用株の候補株を作製し、本委員会において製造用株の更新が必要と判断された場合は、当所で作製した候補株から製造用株を選定してワクチンメー

カーへ配布することとなった。

これを受け、令和6年度はリバース・ジェネティクス法を利用した製造用株の候補株の作出に着手した。

(4) 国内で発生した豚熱への対応

平成30年9月に岐阜県の養豚農場において26年ぶりに発生した豚熱は、国の特定家畜伝染病防疫指針に基づく迅速な防疫体制がとられたにもかかわらず他県にも発生が拡大し、野生イノシシにおける感染も拡大した。これらの状況から当所で行った流行株に対する豚熱生ワクチンの有効性に関する試験（後述）を踏まえ、令和元年10月から飼養豚への豚熱生ワクチンの接種が開始された。令和5年8月には、佐賀県において豚熱の発生が確認されたことを受け、養豚業が盛んな九州全域がワクチン接種推奨地域に設定され、ワクチン接種が可能となったため、豚熱生ワクチンはより一層増産された（令和4年度に比べ令和5年度は12ロット、令和6年度は18ロット増産）。当所では養豚現場への供給に支障が生じないように増産された豚熱生ワクチン及びELISAキット（令和6年度それぞれ39ロット及び6ロット）の国家検定を迅速かつ適確に実施した。

豚熱生ワクチンの効果的な使用に係る情報収集のため、令和3年度から当所のプロジェクト研究を開始し、豚熱生ワクチンに対する豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）生ワクチン及び豚サーコウイルス感染症不活化ワクチン（PCVワクチン）との相互作用について豚を用いた試験により検討を進めた。

プロジェクト研究では、PRRS生ワクチンの豚熱生ワクチンの有効性に及ぼす影響を検討するため、3週齢の豚にPRRS生ワクチンを接種し、その1週間又は2週間後に豚熱生ワクチンを接種し抗体応答を確認した結果、豚熱生ワクチン接種8又は9週後に豚熱ウイルス（CSFV）中和抗体価の32倍以上までの上昇が確認され、PRRS生ワクチンの接種は豚熱生ワクチンによる免疫の獲得に影響を及ぼさないことが確認された。一方、PRRS生ワクチンを接種した一部の試験群では、豚熱生ワクチンのみを接種した対照群と比較してCSFV中和抗体価の上昇が遅れる傾向が認められたことから、PRRS生ワクチンの接種により、豚熱生ワクチンによる抗体産生が一時的に抑制される可能性があることが示唆された。また、PCVワクチンの豚熱生ワクチンの有効性に及ぼす影響を検討するため、3週齢の豚にPCVワクチンを接種し、その1週間後に豚熱生ワクチンを接種し抗体応答を確認した結果、豚熱生ワクチン接種9週後にCSFV中和抗体価の128倍以上までの上昇が確認され、PCVワクチンの接種は豚熱生ワクチンによる免疫の獲得に影響を及ぼさないことが示唆された。これら得られた知見は、養豚現場の獣医師生産者等に情報提供するため、日本獣医学会学術集会、全国家畜保健衛生業績発表会等で発表した。なお、これらの研究は、北海道大学と連携して実施した。

(5) 動物用医薬品の使用に伴う事故防止・被害対応

動物用医薬品の使用による動物の飼育者、獣医師等からの苦情等の相談に対応し、参考文献の検索、関係情報の提供等を実施している。

また、都道府県から野外流行株の提供を受けて抗原性や薬剤感受性を調査することにより、野外流行株に対する動物用医薬品の有効性の検討等を行っている。

令和6年度は動物の飼育者等から8件の相談があり、回答や関係情報の提供を行った。また、変異や変遷等の指標となる微生物として豚丹毒（21株）、豚繁殖・豚呼吸障害症候群ウイルス（34株）、豚サーコウイルス2型（8株）、豚サーコウイルス3型（1株）、マンヘミア・ヘモリチカ（68株）、クレブシエラ（9株）を、野外微生物環境変化の指標となる微生物として、グレセセラ・パラシス（ヘモフィルス・パラシス）（4株）、乳房炎由来ストレプトコッカス属55株を、変異や変遷等の指標となる微生物及び野外微生物環境変化の指標となる微生物として牛及び豚（患畜）由来並びに鶏大腸菌由来の大腸菌（187株）を各都道府県より提供を受け調査を行った。

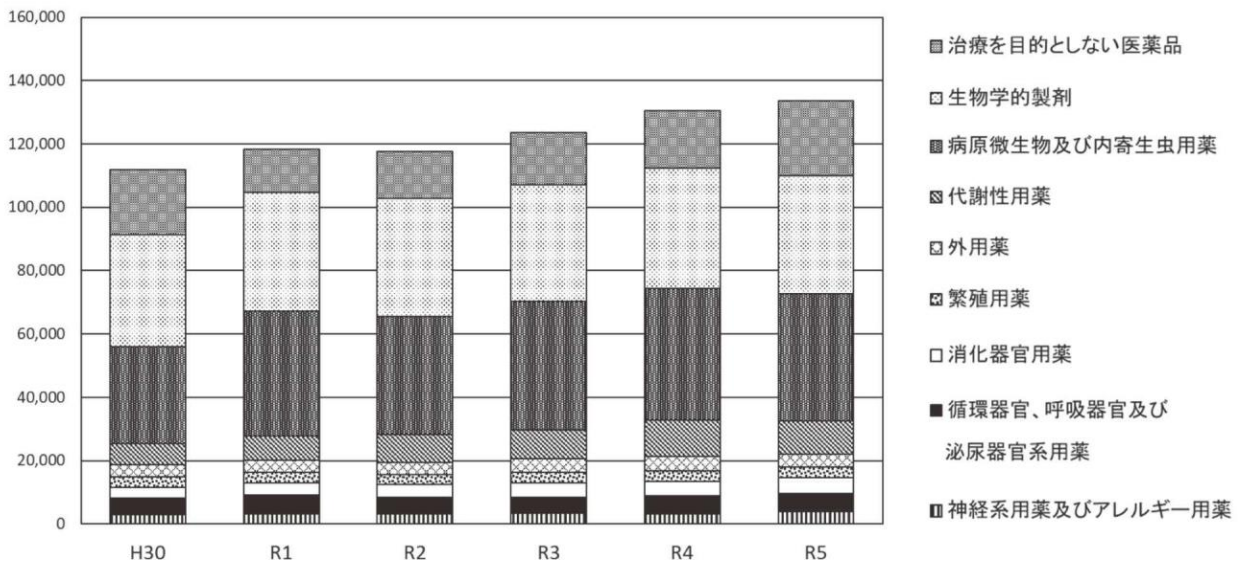
5. 動物用医薬品等の販売量（令和5年）

令和5年の動物用医薬品（医薬部外品を含む）の販売金額は約1,337億円（対前年比102%）、動物用医療機器は約218億円（対前年比156%）であり、前年と比較して動物用医薬品、動物用医療機器ともに増加した。

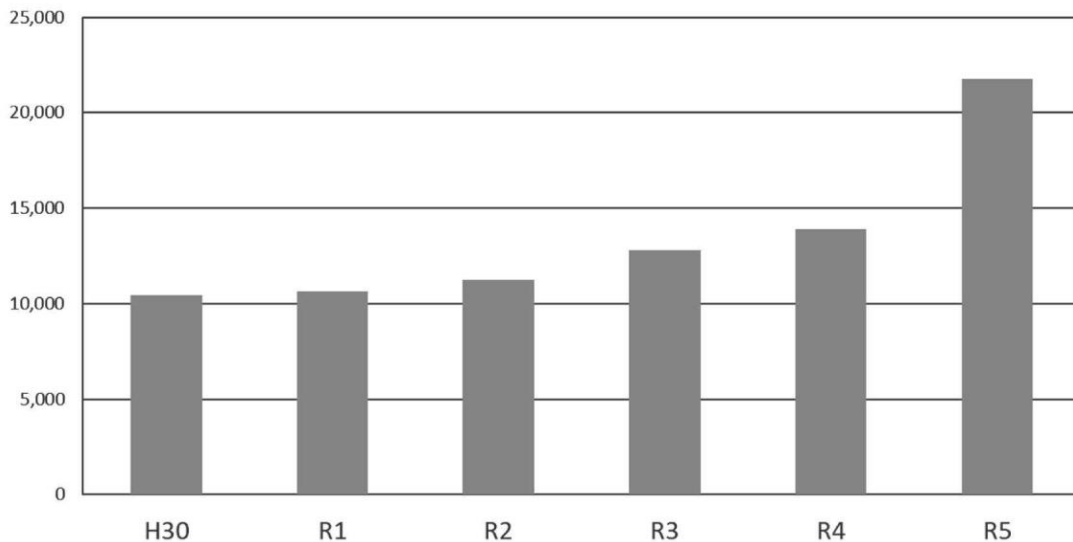
薬理作用別に増減を見ると、殺菌消毒剤や防虫・殺虫剤を含む「治療を目的としない医薬品」が約56億円（対前年比130.8%）、麻酔剤や解熱鎮痛消炎剤を含む「神経系用薬」が約6億円（対前年比120.3%）増加した。一方で、抗生物質製剤を含む「病原微生物及び内寄生虫用薬」が約14億円（対前年比96.7%）、糖類・血液代用剤（主に補液剤）、ビタミン剤、肝疾患用薬を含む「代謝性用薬」が約10億円（対前年比91.1%）減少した。

また、動物用医薬品販売金額の内訳としては、30.1%が「病原微生物及び内寄生虫用薬」、27.8%がワクチンを含む「生物学的製剤」、17.8%が「治療を目的としない医薬品」、7.8%が「代謝性用薬」となっている。

動物用医薬品の販売高の推移（単位：百万円）



動物用医療機器の販売高の推移（単位：百万円）



（出典：平成30年～令和5年動物用医薬品、医薬部外品及び医療機器販売高年報）

施設・予算に関する事項

1. 施設

(1) 敷地

(令和7年3月31日現在)

区分	所在地	面積
庁舎敷地	東京都国分寺市戸倉1丁目15番地1号	8,860.63 m ²
宿舍敷地	〃	893.06
計		9,753.69

(2) 建物

(令和7年3月31日現在)

区分	棟数	建面積	延面積	備考
	棟	m ²	m ²	
庁舎実験室	10	2,526.18	5,843.02	鉄筋コンクリート造3階建及び2階建
動物舎	5	758.80	1,700.03	
動物舎	4	703.80	1,645.03	鉄筋コンクリート造3階建及び2階建
〃	1	55.00	55.00	コンクリートブロック造
その他	8	445.83	789.41	
ポンプ室	1	7.87	7.87	コンクリートブロック造
焼却炉上屋	1	100.60	100.60	鉄骨造
便所	1	6.53	6.53	〃
汚水処理上屋	1	64.01	64.01	〃
飼養管理棟	1	92.40	163.20	鉄筋コンクリート2階建
耐震保管庫	1	55.68	106.16	〃
第二耐震保管庫	1	111.15	333.45	〃
危険物倉庫	1	7.59	7.59	
計	23	3,730.81	8,332.46	

(3) 東京都都市計画道路用地について

令和6年度の動きとしては、東京都に引渡した旧当所敷地内を含む、東京都の都市計画道路は予定どおり工事が進められたが、期間中大きな工事は行われなかったため、業務に影響はなかった。

(4) 当所のつくば市移転について

令和6年度の動きとしては、昨年度に引き続き新庁舎の建設工事を実施した。工事や設計の調整等を国土交省関東地方整備局、工事請負業者及び工事への影響がある筑波産学連携支援センターと実施し、地域紛争などの不安定な国際情勢による資材価格の高騰や、活発な国内設備投資による建設資材及び建

設現場の人員不足の影響を受け、2か月程度工期の遅れが生じたものの、年度末にはすべての建物が完成した。(令和7年3月14日竣工)

対外対応としては、移転時期の国家検定業務への影響について、動物用生物学的製剤の製造販売業者及び都道府県薬事監視業務担当職員を対象に、それぞれ令和6年10月に説明を行い、令和7年度の当所新庁舎移転期間中の業務への影響の理解と協力を求めた。

画像はリモートにいたため、荒れてみえますが実際はクリアです



つくば本庁舎（令和7年3月現在）



動物実験施設（令和7年3月現在）

2. 予算等

最近5か年間における当所の歳入決算額及び歳出予算額は、次のとおりである。

(1) 年度別歳入決算額

(単位：千円)

区分	年度	R2	R3	R4	R5	R6
印紙収入		153,435	140,269	146,474	125,486	156,713
検査手数料		126,330	112,128	116,819	96,737	123,881
生物学的製剤		126,130	111,338	114,705	96,737	122,030
依頼試験		201	790	2,114	0	1,851
薬事法関係行政手数料		27,105	28,141	29,655	28,749	32,832
製造販売承認手数料		13,028	7,701	15,868	12,365	14,231
製造販売承認事項変更承認手数料		6,256	5,894	6,588	4,627	7,134
医薬品等適合性調査手数料		3,981	5,348	4,223	3,509	8,942
製造業者による適合性調査手数料		0	0	0	0	24
再審査手数料		3,776	9,170	2,967	8,091	2,427
輸出用医薬品等適合性調査手数料		64	28	9	156	74
現金収入		1,783	2,590	4,230	2,569	3,435
標準製剤等売払代		854	570	664	469	1,108
GLP・GCP 実地調査手数料		623	1,141	2,521	1,173	1,872
その他		306	879	1,046	927	455
合 計		155,218	142,859	150,704	128,055	160,148

(2) 年度別歳出予算額 (当初予算額)

(単位：千円)

区分	年度	R2	R3	R4	R5	R6
人 件 費		612,335	608,466	600,630	614,023	616,114
事 務 費		90,986	97,571	90,186	89,969	90,719
事 業 費		336,450	363,723	392,544	357,876	358,950
小 計		1,039,771	1,069,760	1,083,360	1,061,868	1,065,783
施設整備費		0	0	0	22,968	34,452
合 計		1,039,771	1,069,760	1,083,360	1,084,836	1,100,235

組織と業務等に関する事項

1. 機構と職員数

(令和7年3月31日現在)

区 分	職員数			
	行政 (一)	行政 (二)	研究	計
所 長	1			1
企画連絡室				
企画連絡室長	1			1
企画調整課長	1			1
企画調整係	1			1
技術連絡係	1			1
一般職員	1			1
審査調整課長	1			1
生物学的製剤第1係	1			1
生物学的製剤第2係	1			1
一般薬係	1			1
抗菌性物質製剤係	1			1
再生医療等製品係	1			1
一般職員				2
技術指導課長	1			1
技術審査係	1			1
調査指導係	1			1
一般職員	1			1
検定検査品質保証科長				
品質保証係	1			1
標準品管理係	1			1
一般職員	1			1
動物用医薬品審査官	1			1
動物用医療機器審査官				
動物用医薬品専門官				
病原微生物管理専門官	1			1
庶務課				
庶務課長	1			1
課長補佐	1			1
庶務係				
人事係				
管理厚生係	1			1
一般職員	1			1
会計課				
会計課長	1			1
予算決算係	1			1
会計係	1			1
用度係	1			1
国有財産係	1			1
一般職員	1			1
検査第一部				
検査第一部長			1	1
総括上席研究官			3	3
上席主任研究官			3	3
主任研究官			3	3
主任検査官	2			2
検査員	5			5
一般職員		6		6
検査第二部				
検査第二部長			1	1
総括上席研究官			3	3
上席主任研究官			1	1
主任研究官			2	2
主任検査官	2			2
検査員	4			4
一般職員		2		2
計	46	8	17	71

2. 職員と業務分担（令和7年3月31日現在）

所長 嶋崎 智章

（1）企画連絡室

室長 國分 玲子

動物用医薬品審査官 遠藤 秀紀

① 企画調整課

課長 宇野 美鈴

係	所掌事務
企画調整係 係長 磯部 哲志	1 動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等製品の検査業務の企画及び連絡調整に関する事。
技術連絡係 係長 山本 篤	2 検査試験品の受付及び検定結果の通知に関する事。 3 動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等製品に関する苦情相談及び事故被害事例への対応に関する事。
一般職員 佐伯 陽平	4 動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等製品に関する副作用情報その他の情報の提供に関する事。 5 動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等製品に関する資料の収集及び整理に関する事。 6 動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等製品の製造及び検査に関する技術の講習に関する事。 7 動物用の医薬品、医療機器及び再生医療等製品の添付文書等記載事項の届出に関する事。

② 審査調整課

課長 高橋 周子

係	所掌事務
生物学的製剤第1係 係長 山田 安里沙	1 動物用の生物学的製剤の製造販売の承認申請に係る技術的審査に関する事。 2 動物用の生物学的製剤の原薬等登録の申請に係る技術的審査に関する事。
生物学的製剤第2係 係長 細田 裕子	3 動物用の医薬品（生物学的製剤及び抗菌性物質製剤を除く。）、医薬部外品及び医療機器の製造販売の承認の申請に係る技術的審査に関する事。
一般薬係 坂本 光弘	4 動物用の医薬品（生物学的製剤及び抗菌性物質製剤を除く。）及び医療機器の原薬等登録の申請に係る技術的審査に関する事。 5 動物用の抗菌性物質製剤の製造販売の承認の申請に係る技術的審査に関する事。
抗菌性物質製剤係 係長 秋山 薫	6 動物用の抗菌性物質製剤の原薬等登録の申請に係る技術的審査に関する事。 7 動物用の再生医療等製品の製造販売の承認申請に係る技術的審査に関する事。
再生医療等製品係 係長 谷田 奈津美	8 動物用の再生医療等製品の原薬等登録の申請に係る技術的審査に関する事。
一般職員 岡部 薫	
一般職員（畜水産安全管理課） 松本 継海	

③ 技術指導課

課長 金原 真理子

係	所 掌 事 務
技術審査係 係長 田村 直也	1 動物用の医薬品、医療機器及び再生医療等製品の再評価に関すること。
調査指導係 係長 志賀 佑太	2 動物用の医薬品、医薬部外品及び医療機器の同等性評価に関すること。
一般職員(畜水産安全管理課) 宅原 真理	3 動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等製品の使用上の注意の変更届に関すること。
	4 動物用の医薬品及び再生医療等製品の臨床試験の実施の基準及び製造販売後調査の基準に基づく調査及び指導に関すること。
	5 動物用の医薬品、医療機器及び再生医療等製品の製造管理及び品質管理の基準に基づく調査及び指導に関すること。
	6 動物用の医薬品、医療機器及び再生医療等製品の治験届に関すること。
	7 動物用の医薬品、医療機器及び再生医療等製品の再審査に関すること。
	8 動物用の生物由来製品による感染症の定期的な報告に係る評価及び指導に関すること。

④ 検定検査品質保証科

科長 松本 理恵

係	所 掌 事 務
品質保証係 係長 赤間 亮子	1 動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等製品の検査成績の評価に関すること。
標準品管理係 係長 申田 千帆	2 動物用の医薬品、医薬部外品及び再生医療等製品に係る標準製剤等の検査成績の評価に関すること。
一般職員(畜水産安全管理課) 久保 舞佳	3 動物用の医薬品、医薬部外品及び再生医療等製品の検査並びに病原微生物及び化学物質の管理に関する監査に関すること。

(2) 庶務課

課長 青谷 宏之

課長補佐 建部 美絵

係	所掌事務
庶務係	1 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関する事。
人事係	2 所長の官印及び所印の保管に関する事。 3 職員の勤務時間及び休暇に関する事。
管理厚生係	4 職員の職階、任免、分限、懲戒、服務その他人事一般に関する事。 5 職員の俸給及び諸手当並びに退職手当に関する事（支給に関するものを除く。）。
係長 山田 理恵子	6 職員団体に関する事。 7 職員の福利厚生及び事務能率の向上に関する事。
一般職員	8 職員の公務災害補償及び退職者の年金等に関する事（支給に関するものを除く。）。
係長 水谷 舞	9 農林水産省共済組合に関する事。 10 前各号に掲げるもののほか、動物医薬品検査所の所掌事務で他の所掌に属しないものに関する事。

(3) 会計課

課長 飯塚 秀夫

病原微生物管理専門官 大野 貴宏

係	所掌事務
予算決算係	1 予算及び決算に関する事。
係長 平田 昌宏	2 前渡資金に関する事。 3 支出負担行為の実施計画及び支払計画に関する事。
会計係	4 支出負担行為の確認に関する事。 5 支払決議書及び徴収決議書の審査に関する事。
係長 宮本 裕香利	6 債権の管理に関する事。 7 歳入の徴収に関する事。
用度係	8 小切手等の振出し及び交付に関する事。 9 職員の俸給、諸手当及び旅費の支給に関する事。
係長 菅沢 陽太	10 収入及び支払の計算証明に関する事。
国有財産係	11 前各号に掲げるもののほか、会計経理に関する事
係長 宮崎 光樹	12 物品の購入及び役務の調達に関する事。 13 物品の管理に関する事。
一般職員	14 物品の計算証明に関する事。 15 庁内の管理に関する事。
小野寺 美羽	16 行政財産の管理に関する事。 17 行政財産の計算証明に関する事。 18 営繕に関する事。

(4) 検査第一部

部長 萩窪 恭明

総括上席研究官 山本 欣也 総括上席研究官 岩本 聖子 総括上席研究官 五藤 秀男
上席主任研究官 石原 好仁 上席主任研究官 佐藤 耕太 上席主任研究官 小澤 真名緒
主任研究官 小島 明美 主任研究官 山下 麻依子 主任研究官 萩野 智絵
主任検査官 小倉 亜希 主任検査官 落合 絢子
検査員 木田 萌子、小林 由佳、一戸 夏美、羽生 航、松永 渡羽
技能職員 大出水 幹男、山崎 雅人、小嶋 英樹、川野 智、飯森 哲也、長坂 孝雄

検査第一部

- 1 動物用の生物学的製剤及び再生医療等製品の検査を行うこと。
 - 2 動物用の生物学的製剤及び再生医療等製品の検査に関する調査及び研究を行うこと。
 - 3 動物用の生物学的製剤及び再生医療等製品に係る細胞株、ウイルス株、菌株及び標準製剤の保存及び配布を行うこと。
-

(5) 検査第二部

部長 関谷 辰朗

総括上席研究官 小池 良治 総括上席研究官 関口 秀人 総括上席研究官 江口 郁
上席主任研究官 川西 路子
主任研究官 小形 智子 主任研究官 松田 真理
主任検査官 平澤 緑 主任検査官 細井 悠太
検査員 岩崎 雅子、原田 咲、熊川 実旺、石井 智子
技能職員 伊藤 清美、石川 容子

検査第二部

- 1 動物用の医薬品（生物学的製剤を除く。）、医薬部外品及び医療機器の検査を行うこと。
 - 2 動物用の医薬品（生物学的製剤を除く。）、医薬部外品及び医療機器の検査に関する調査及び研究を行うこと。
 - 3 動物用の医薬品（生物学的製剤を除く。）、及び医薬部外品に係る菌株及び標準製剤の保存及び配布を行うこと。
-

3. 定員

区分	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
所	長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
部	長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
企 画 連 絡 室	長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
課	長	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
科	長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
動物用医薬品審査官		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
動物用医療機器審査官		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
動物用医薬品専門官		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
病原微生物管理専門官		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
総括上席研究官		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
上席主任研究官		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
主任研究官		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
課長補佐		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主任検査官		6	6	6	7	7	7	7	7	8	9
係	長	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
検 査	員	7	7	6	6	5	5	6	5	5	4
一 般 職	員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
技 能 職	員	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
合 計		77	77	76	76	75	75	76	75	76	76

4. 職員の異動

(1) 採用

年月日	氏 名	所 属	備 考
R6.4.1	宅 原 真 理	企 画 連 絡 室	
R6.4.1	松 本 継 海	企 画 連 絡 室	
R6.4.1	久 保 舞 佳	企 画 連 絡 室	
R6.4.1	小 野 寺 美 羽	会 計 課	
R6.6.1	石 井 智 子	検 査 第 二 部	任期付採用
R6.10.1	岡 部 薫	企 画 連 絡 室	任期付採用

(2) 退職

年月日	氏 名	所 属	備 考
R7.3.31	遠 藤 秀 紀	企 画 連 絡 室	定年退職
R7.3.31	青 谷 宏 之	庶 務 課	応募認定退職
R7.3.31	小 島 明 美	検 査 第 一 部	応募認定退職
R7.3.31	石 原 好 仁	検 査 第 一 部	応募認定退職
R7.3.31	松 田 真 理	検 査 第 二 部	定年退職

(3) 転入

年月日	氏名	所属	備考
R6.4.1	宇野 美鈴	企画連絡室	消費・安全局畜水産安全管理課より
R6.4.1	山田 安里沙	企画連絡室	内閣感染症危機管理統括庁より
R6.4.1	松本 理恵	企画連絡室	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構より
R6.4.1	菅沢 陽太	会計課	大臣官房予算課より
R6.5.1	水谷 舞	庶務課	消費・安全局動物衛生課より

(4) 転出

年月日	氏名	所属	備考
R6.4.1	柳澤 洋喜	企画連絡室	消費・安全局動物衛生課へ
R6.4.1	内山 万利子	企画連絡室	消費・安全局畜水産安全管理課へ
R6.4.1	出口 亨	企画連絡室	消費・安全局畜水産安全管理課へ
R6.4.1	川嶋 太喜	企画連絡室	消費・安全局畜水産安全管理課へ
R6.4.1	土屋 龍平	会計課	消費・安全局畜水産安全管理課へ
R6.4.1	菊谷 祐斗	検査第一部	内閣感染症危機管理統括庁へ
R6.6.1	天野 優	庶務課	消費・安全局畜水産安全管理課へ
R7.3.31	金原 真理子	企画連絡室	独立行政法人農畜産業振興機構へ

(5) 海外出張等

氏名	所属	出張先	期間	備考
小倉 亜希	企画連絡室	バンコク (タイ)	R6.6.11 ~ R6.6.15	動物用医薬品に関する国際ワークショップへの参加
小林 由佳	検査第一部			
田村 直也	企画連絡室	メキシコシティ (メキシコ)	R6.11.3 ~ R6.11.9	GLP 査察官のためのトレーニングコース (16th OECD Training Course for GLP Inspectors) への参加
岩本 聖子	検査第一部	アムステルダム (オランダ)	R6.11.8 ~ R6.11.15	第43回 VICH (動物用医薬品の承認審査資料の調和に関する国際協力) 運営委員会、第17回 VICH Forum 会合、第7回 VICH 公開会議及び生物学的同等性専門家作業部会会合への参加
江口 郁	検査第二部			
佐藤 耕太	検査第一部			
落合 絢子	検査第一部			
岩崎 雅子	検査第二部			

5. 受賞者

表彰種別	氏名	受賞内容	摘要
局長賞	関谷 辰朗	優良職員表彰	第5回G7CVOフォーラム運営チーム
局長賞	関口 秀人	優良職員表彰	第5回G7CVOフォーラム運営チーム
局長賞	川西 路子	優良職員表彰	第5回G7CVOフォーラム運営チーム
局長賞	松田 真理	優良職員表彰	第5回G7CVOフォーラム運営チーム
局長賞	平岡 ゆかり	優良職員表彰	第5回G7CVOフォーラム運営チーム
局長賞	原田 咲	優良職員表彰	第5回G7CVOフォーラム運営チーム
局長賞	熊川 実旺	優良職員表彰	第5回G7CVOフォーラム運営チーム
局長賞	松永 渡羽	優良職員表彰	豚熱ワクチン接種体制強化チーム
局長賞	坂本 光弘	優良職員表彰	豚熱ワクチン接種体制強化チーム
局長賞	佐伯 陽平	優良職員表彰	豚熱ワクチン接種体制強化チーム
永年勤続表彰	萩窪 恭明	30年表彰	
永年勤続表彰	小島 明美	30年表彰	
永年勤続表彰	大野 貴宏	30年表彰	
永年勤続表彰	平田 昌宏	30年表彰	
永年勤続表彰	伊藤 清美	30年表彰	
永年勤続表彰	赤間 亮子	20年表彰	
永年勤続表彰	宇野 美鈴	20年表彰	

6. 人材育成と業務能率向上の取組

動物医薬品検査所における業務遂行に必要な知識等の習得等を目的として、バイオセーフティ教育訓練、動物実験および衛生管理区域に関する教育訓練、毒劇薬・毒劇物管理に関する教育訓練、ISOに関する一般教育、内部監査員養成のための研修等を実施した。

また、国立保健医療科学院が開催した医薬品医療機器の品質確保に関する研修や独立行政法人農林水産消費技術センターが開催した農業GLP基礎研修、FAOが開催したオンライントレーニングコース「アジア太平洋地域のHPAIコントロールにおけるワクチン管理」等の外部研修にも当所職員が参加した。

企画連絡に関する事項

I 品質等の確保

1. 令和6年度検定・検査関係告示等の制定、改定等

(1) 動物用生物学的製剤基準

令和6年4月4日 農林水産省告示第719号

(1) 新規制定

- 1 鶏サルモネラ症（サルモネラ・インファンティス、サルモネラ・エンテリテイデイス、サルモネラ・ティフィムリウム）（油性アジュバント加）不活化ワクチン
- 2 マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症（アジュバント・油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）
- 3 犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬ボルデテラ感染症（部分精製赤血球凝集素）混合不活化ワクチン（シード）

(2) 一部改正

- 1 豚ボルデテラ感染症不活化・パスツレラ・ムルトシダトキソイド混合（油性アジュバント加）ワクチン（シード）
- 2 豚ボルデテラ感染症不活化・パスツレラ・ムルトシダトキソイド・豚丹毒不活化混合（アジュバント加）ワクチン（シード）
- 3 ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬レプトスピラ病（カニコーラ・イクテロヘモラジー）混合ワクチン（シード）

令和6年10月16日 農林水産省告示第414号

(1) 新規制定

- 1 猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症・猫汎白血球減少症混合生ワクチン（シード）

(2) 一部改正

該当なし

令和7年3月14日 農林水産省告示第414号

(1) 新規制定

- 1 アカバネ病（アジュバント加）不活化ワクチン
- 2 イリドウイルス病・ぶりビブリオ病・ α 溶血性レンサ球菌症・類結節症混合（多糖アジュバント加）不活化ワクチン
- 3 牛ボツリヌス症（C・D型）（アジュバント加）トキソイド（シード）
- 4 豚アクチノバシラス・プルロニューモニエ（1・2・5型、組換え型毒素）感染症（アジュバント・油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）

(2) 一部改正

- 1 トリニューモウイルス感染症（油性アジュバント加）不活化ワクチン
- 2 トリレオウイルス感染症（油性アジュバント加）不活化ワクチン
- 3 ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性ファブリキウス嚢病・トリニューモウイルス感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン
- 4 豚大腸菌性下痢症不活化・クロストリジウム・パーフリンゲンストキソイド混合（アジュバント加）ワクチン（シード）
- 5 豚サーコウイルス（2型・組換え型）感染症・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症混合（カルボキシビニルポリマーアジュバント加）不活化ワクチン（シード）
- 6 鶏伝染性気管支炎生ワクチン（シード）
- 7 ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・鶏伝染性コリーザ（A・C型）・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）
- 8 ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症混合生ワクチン（シード）
- 9 サルモネラ否定試験法

(2) 動物用生物学的製剤検定基準

令和6年6月28日 農林水産省告示第1278号

(1) 新規制定

- 1 豚熱診断用酵素抗体反応キット（競合法）

(2) 一部改正

- 1 豚熱診断用酵素抗体反応キット（間接法）

2. 令和4～令和6年度標準製剤等の配布本数

標準製剤等	令和4年度	令和5年度	令和6年度
イバラキ病ウイルスNo.2株	0	0	0
牛ウイルス性下痢ウイルス No.12株	0	0	0
牛ウイルス性下痢ウイルス No.5株	0	0	0
牛伝染性鼻気管炎ウイルスNo.758株	0	0	0
牛流行熱ウイルス YHL株	0	0	0
動物用破傷風試験毒素	1	0	1
動物用標準破傷風抗毒素	0	1	0
動物用標準沈降破傷風トキソイド	9	8	17
動物用標準ツベルクリン	0	0	0
標準インフルエンザワクチン（CCA用）	0	3	1
豚熱ウイルス ALD株	0	0	0
日本脳炎ウイルス中山株薬検系	0	0	0
豚伝染性胃腸炎ウイルス静岡株	0	0	0
豚丹毒菌県株	0	0	0
豚丹毒菌 NVAL82-875株	0	0	0
豚丹毒菌藤沢株	0	0	0
抗豚熱ウイルス GPE ⁻ モノクローナル抗体	2	3	17
参照抗豚熱ウイルス豚血清	10	10	10
ジステンパーウイルススナイダー・ヒル株	0	0	0
犬パルボウイルス Y-1株	0	0	0
狂犬病ウイルスCVS株	0	0	0
狂犬病ウイルス西ヶ原株	0	0	0
参照狂犬病組織培養不活化ワクチン	90	30	142
鶏痘ウイルス中野株	0	0	0
ニューカッスル病ウイルス佐藤株	0	0	0
鶏伝染性喉頭気管炎ウイルスNS 175株	0	0	1
参照ニューカッスル病診断用赤血球凝集抗原用抗原及び陽性血清	5	0	8
参照鶏伝染性コリザ（A型）赤血球凝集抗原用陽性血清	0	0	0
参照鶏伝染性コリザ（C型）赤血球凝集抗原用陽性血清	0	0	0
産卵低下症候群-1976赤血球凝集抗原・参照陽性血清	0	0	0
ラクトコッカス・ガルビエKG 9502株	0	0	0
参照ビブリオ病力価試験用陽性血清	0	0	0
抗リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス兎血清	1	0	1
リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染細胞固定スライド	5	0	6
家畜衛生微生物株	0	5	4
合 計	123	60	208

3. 令和5、令和6年度検定申請受付件数及び合格数量

※令和4年9月に製造・試験記録等要約書審査制度に移行したため、検定を書面審査のみで実施するものは、有効成分数でとりまとめています。

一般的名称又は製剤の概要	令和5年度						令和6年度					
	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位
血 清												
破傷風抗毒素 有効成分数が1のもの	1	22,400	mL									
小 計	1			0			0			0		
ワクチン												
牛クロストリジウム・ボツリヌス (C・D型) 感染症(アジュバント加)トキソイド(シード)												
牛疫生ワクチン (シード)	1	107,450	dose									
牛伝染性鼻気管炎・牛パラインフルエンザ混 合生ワクチン (シード)												
牛伝染性鼻気管炎・牛パラインフルエンザ・ 牛RSウイルス感染症混合生ワクチン(シード)												
アカバネ病・チュウザン病・アイノウイルス 感染症・ピートンウイルス感染症混合(アジュ バント加) 不活化ワクチン (シード)												
アカバネ病・チュウザン病・アイノウイルス感 染症混合 (アジュバント加) 不活化ワクチン												
牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢2価・ 牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染 症混合 (アジュバント加) 不活化ワクチン												
牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢・牛パ ラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症・ 牛アデノウイルス感染症混合生ワクチン												
牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢2価・ 牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染 症・牛アデノウイルス感染症混合生ワクチン												
牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢2価・ 牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染 症・牛アデノウイルス感染症混合ワクチン												
牛サルモネラ症 (サルモネラ・ダブリン・サ ルモネラ・ティフィムリウム) (アジュバン ト加) 不活化ワクチン												
牛大腸菌性下痢症 (K99 保有全菌体・FY 保 有全菌体・31A 保有全菌体・O78 全菌体) (ア ジュバント加) 不活化ワクチン												
牛レプトスピラ病 (アジュバント加) 不活化 ワクチン (シード)												
炭疽生ワクチン (シード)	1	82,400	dose				1	82,400	dose			
ヒストフィルス・ソムニ (ヘモフィルス・ソ ムナス) 感染症・パスツレラ・ムルトシダ感 染症・マンヘミア・ヘモリチカ感染症混合 (ア ジュバント加) 不活化ワクチン												
乳房炎 (黄色ブドウ球菌)・乳房炎 (大腸菌) 混合 (油性アジュバント加) 不活化ワクチン												
乳房炎 (黄色ブドウ球菌)・乳房炎 (大腸菌) 混合 (油性アジュバント加) 不活化ワクチン (シード)												
牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢-粘膜 病・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス 感染症・牛アデノウイルス感染症・牛ヒスト フィルス・ソムニ (ヘモフィルス・ソムナス) 感染症混合 (アジュバント加) ワクチン												
有効成分数が1のもの	0						1					
有効成分数が2のもの	4						6					
有効成分数が3のもの	2						4					
有効成分数が4のもの	0						0					
有効成分数が5のもの	11						12					
有効成分数が6のもの	9						8					
有効成分数が7のもの	0						0					
有効成分数が8のもの	0						0					
有効成分数が9のもの	0						0					
有効成分数が10のもの	0						0					
有効成分数が1のもの (シード)	0						0					
有効成分数が2のもの (シード)	12						14					

一般的名称又は製剤の概要	令和5年度						令和6年度					
	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位
有効成分数が3のもの(シード)	7						7					
有効成分数が4のもの(シード)	0						0					
有効成分数が5のもの(シード)	0						0					
有効成分数が6のもの(シード)	0						0					
有効成分数が7のもの(シード)	0						0					
有効成分数が8のもの(シード)	0						0					
有効成分数が9のもの(シード)	0						0					
有効成分数が10のもの(シード)	0						0					
牛用ワクチン小計	47			0			53			0		
馬インフルエンザ不活化ワクチン												
馬ウイルス性動脈炎不活化ワクチン(アジュバント加溶解用液)												
馬鼻肺炎生ワクチン												
馬鼻肺炎生ワクチン(シード)												
日本脳炎・ゲタウイルス感染症混合不活化ワクチン(シード)	2	88,920	mL				1	92,190	mL			
馬インフルエンザ不活化・日本脳炎不活化・破傷風トキソイド混合(アジュバント加)ワクチン	3	56,113	mL	△1			4	80,267	mL			
有効成分数が1のもの	3						4					
有効成分数が2のもの	0						0					
有効成分数が3のもの	0						0					
有効成分数が4のもの	0						0					
有効成分数が5のもの	0						0					
有効成分数が6のもの	0						0					
有効成分数が7のもの	0						0					
有効成分数が8のもの	0						0					
有効成分数が9のもの	0						0					
有効成分数が10のもの	0						0					
有効成分数が1のもの(シード)	0						0					
有効成分数が2のもの(シード)	0						0					
有効成分数が3のもの(シード)	0						0					
有効成分数が4のもの(シード)	0						0					
有効成分数が5のもの(シード)	0						0					
有効成分数が6のもの(シード)	0						0					
有効成分数が7のもの(シード)	0						0					
有効成分数が8のもの(シード)	0						0					
有効成分数が9のもの(シード)	0						0					
有効成分数が10のもの(シード)	0						0					
馬用ワクチン小計	8			△1			9					
豚熱生ワクチン(シード)	33	21,123,050	dose	△1			39	23,549,870	dose	△1	263,900	dose
日本脳炎生ワクチン(シード)	2	298,080	dose				2	348,690	dose			
日本脳炎不活化ワクチン(シード)	2	519,460	mL				2	266,360	mL			
日本脳炎(アジュバント加)不活化ワクチン	2	615,320	mL				3	924,840	mL			
豚サーコウイルス(2型)感染症(1型・2型キメラ、1型-2b型キメラ)(油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)												
豚サーコウイルス(2型)感染症(1型・2型キメラ、1型-2b型キメラ)・マイコプラズマ・ハイオニューモエ感染症混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)												
豚サーコウイルス(2型・組換え型)感染症(酢酸トコフェロール・油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)												
豚サーコウイルス(2型)感染症不活化ワクチン(油性アジュバント加懸濁用液)												
豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン(シード)												
日本脳炎・豚バルボウイルス感染症混合生ワクチン	2	475,340	dose				1	188,140	dose			
日本脳炎・豚バルボウイルス感染症混合生ワクチン(シード)	1	167,770	dose				1	224,160	dose			

一般的名称又は製剤の概要	令和5年度						令和6年度																	
	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位												
豚伝染性胃腸炎・豚流行性下痢混合生ワクチン	1	286,530					2	573,200																
日本脳炎・豚バルボウイルス感染症・豚ゲタウイルス感染症混合生ワクチン（シード）																								
豚丹毒全菌体（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）																								
豚アクチノバシラス・ブルロニューモニエ（1・2・5型、組換え型毒素）感染症（アジュバント・油性アジュバント加）不活化ワクチン																								
豚アクチノバシラス・ブルロニューモニエ感染症（1型部分精製・無毒化毒素）・豚丹毒混合（トコフェロール酢酸エステルアジュバント加）不活化ワクチン（シード）																								
マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症（カルボキシビニルポリマーアジュバント加）不活化ワクチン																								
マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症（アジュバント・油性アジュバント加）不活化ワクチン																								
豚増殖性腸炎生ワクチン																								
ボルデテラ・ブロンキセプチカ・パスツレラ・ムルトシダ混合（アジュバント加）トキソイド（組換え型）																								
ボルデテラ・ブロンキセプチカトキソイド・パスツレラ・ムルトシダトキソイド・豚丹毒混合（アジュバント加）ワクチン（組換え型）																								
不活化ボルデテラ・ブロンキセプチカ・遺伝子組換え型パスツレラ・ムルトシダ精製毒素混合（アジュバント加）ワクチン																								
豚インフルエンザ・豚丹毒混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン																								
豚サーコウイルス（2型・組換え型）感染症・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症混合（アジュバント・油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）																								
豚サーコウイルス（2型・組換え型）感染症（カルボキシビニルポリマーアジュバント加）・豚繁殖・呼吸障害症候群・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症（カルボキシビニルポリマーアジュバント加）混合ワクチン																								
浮腫病（組換え型毒素 Stx2eA）（アジュバント加）不活化ワクチン（シード）																								
浮腫病（アジュバント加）トキソイド（組み換え型）（シード）																								
有効成分数が1のもの													3						4					
有効成分数が2のもの													4						5					
有効成分数が3のもの													6						7					
有効成分数が4のもの													0						0					
有効成分数が5のもの													0						0					
有効成分数が6のもの	0						0																	
有効成分数が7のもの	0						0																	
有効成分数が8のもの	0						0																	
有効成分数が9のもの	0						0																	
有効成分数が10のもの	0						0																	
有効成分数が1のもの（シード）	17						20																	
有効成分数が2のもの（シード）	7						9																	
有効成分数が3のもの（シード）	6						4																	
有効成分数が4のもの（シード）	1						2																	
有効成分数が5のもの（シード）	3						6																	
有効成分数が6のもの（シード）	0						2																	
有効成分数が7のもの（シード）	0						0																	
有効成分数が8のもの（シード）	0						0																	
有効成分数が9のもの（シード）	0						0																	
有効成分数が10のもの（シード）	0						0																	
豚用ワクチン小計	90			△ 1			109			△ 1														
産卵低下症候群-1976（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1	1,008,000	mL				1	1,016,500	mL															
鳥インフルエンザ（油性アジュバント加）不活化ワクチン																								

一般的名称又は製剤の概要	令和5年度						令和6年度					
	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位
トリニューモウイルス感染症生ワクチン												
トリニューモウイルス感染症（油性アジュバント加）不活化ワクチン												
トリレオウイルス感染症（油性アジュバント加）不活化ワクチン												
ニューカッスル病生ワクチン（シード）	10	1,244,264,000	dose				12	1,256,211,000	dose			
鶏伝染性気管支炎生ワクチン												
鶏伝染性気管支炎生ワクチン（シード）												
鶏伝染性ファブリキウス嚢病凍結生ワクチン（シード）												
鶏伝染性ファブリキウス嚢病（抗血清加）生ワクチン												
鶏伝染性ファブリキウス嚢病生ワクチン（ひな用中等毒）												
鶏伝染性ファブリキウス嚢病・マレック病（鶏伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス由来VP2由来遺伝子導入七面鳥ヘルペスウイルス）凍結生ワクチン（シード）												
マレック病（マレック病ウイルス1型）凍結生ワクチン												
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎混合生ワクチン（シード）	17	451,299,000	dose				21	667,330,000	dose			
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	1	1,971,000	mL				2	3,986,500	mL			
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・産卵低下症候群-1976混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1	901,500	mL				7	6,542,500	mL			
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	0						0					
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・産卵低下症候群-1976・トリニューモウイルス感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0						3	12,558,000	mL			
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性ファブリキウス嚢病・トリニューモウイルス感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1	2,396,000	mL				1	2,389,000	mL			
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性ファブリキウス嚢病・トリレオウイルス感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	0						1	1,723,000	mL			
鶏サルモネラ症（サルモネラ・インファンティス・サルモネラ・エンテリティデイス・サルモネラ・ティフィウム）（油性アジュバント加）不活化ワクチン												
鶏サルモネラ症（サルモネラ・インファンティス抽出抗原・サルモネラ・エンテリティデイス抽出抗原・サルモネラ・ティフィウム抽出抗原）（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）												
鶏大腸菌症生ワクチン（シード）												
鶏大腸菌症（O78全菌体破碎処理）（脂質アジュバント加）不活化ワクチン												
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・鶏伝染性コリザ（A・C型菌処理）混合（アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	0						0					
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・鶏伝染性コリザ（A・C型）混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	2	1,924,000	mL				2	1,925,500	mL			
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性コリザ（A・C型）混合（アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	3	5,117,500	mL				3	5,136,500	mL			
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性コリザ（A・C型組換え融合抗原）混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0											
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・鶏伝染性コリザ（A・C型）・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	5	7,851,000	mL	△1			2	3,157,500	mL	△1	1,614,500	mL
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性コリザ（A・C型組換え融合抗原）・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0											
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・産卵低下症候群-1976・鶏伝染性コリザ（A・C型組換え融合抗原）・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	2	5,584,500	mL				4	11,191,000	mL			

一般的名称又は製剤の概要	令和5年度						令和6年度					
	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位
ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎3価・ 産卵低下症候群-1976・鶏伝染性コリーザ (A・C型)・マイコプラズマ・ガリセプチカ ム感染症混合(油性アジュバント加)不活化 ワクチン	0						0					
有効成分数が1のもの	7						7					
有効成分数が2のもの	1						2					
有効成分数が3のもの	3						5					
有効成分数が4のもの	0						0					
有効成分数が5のもの	0						0					
有効成分数が6のもの	0						0					
有効成分数が7のもの	0						0					
有効成分数が8のもの	0						0					
有効成分数が9のもの	0						0					
有効成分数が10のもの	0						0					
有効成分数が1のもの(シード)	1						4					
有効成分数が2のもの(シード)	0						0					
有効成分数が3のもの(シード)	3						2					
有効成分数が4のもの(シード)	0						0					
有効成分数が5のもの(シード)	1						13					
有効成分数が6のもの(シード)	0						0					
有効成分数が7のもの(シード)	0						0					
有効成分数が8のもの(シード)	0						0					
有効成分数が9のもの(シード)	0						0					
有効成分数が10のもの(シード)	0						0					
鶏用ワクチン小計	59			△1			92			△1		
ひらめβ溶血性レンサ球菌症不活化ワクチン												
イリドウイルス病・β溶血性レンサ球菌症混 合不活化ワクチン												
イリドウイルス病・ぶりビプリオ病・α溶血 性レンサ球菌症混合不活化ワクチン												
イリドウイルス病・ぶりビプリオ病・α溶血 性レンサ球菌症2価混合不活化ワクチン												
イリドウイルス病・ぶりビプリオ病・α溶血 性レンサ球菌症2価・類結節症混合(油性ア ジュバント加)不活化ワクチン												
有効成分数が1のもの	2						4					
有効成分数が2のもの	3						0					
有効成分数が3のもの	1						1					
有効成分数が4のもの	1						0					
有効成分数が5のもの	4						1					
有効成分数が6のもの	0						0					
有効成分数が7のもの	0						0					
有効成分数が8のもの	0						0					
有効成分数が9のもの	0						0					
有効成分数が10のもの	0						0					
有効成分数が1のもの(シード)	0						0					
有効成分数が2のもの(シード)	0						0					
有効成分数が3のもの(シード)	0						0					
有効成分数が4のもの(シード)	0						0					
有効成分数が5のもの(シード)	0						0					
有効成分数が6のもの(シード)	0						0					
有効成分数が7のもの(シード)	0						0					
有効成分数が8のもの(シード)	0						0					
有効成分数が9のもの(シード)	0						0					
有効成分数が10のもの(シード)	0						0					
魚用ワクチン小計	11			0			6			0		
狂犬病組織培養不活化ワクチン(シード)	13	4,080,440	mL				21	4,582,430	mL			
ジステンパー・犬パルボウイルス感染症混合 生ワクチン												

一般的名称又は製剤の概要	令和5年度						令和6年度					
	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位
ジステンパー・犬アデノウイルス(2型)感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症混合(アジュバント加) ワクチン(シード)												
犬レプトスピラ病(カニコーラ・イクテロヘモラジー・グリッポチフォーサ・ボモナ)不活化ワクチン(アジュバント加溶解用液)(シード)												
犬レプトスピラ病(カニコーラ・コペンハーゲン・ヘブドマデイス・オータムナリス・オーストラリス)不活化ワクチン(シード)												
犬アデノウイルス(2型)感染症・犬パラインフルエンザ・犬ボルデテラ感染症(部分精製赤血球凝集素)混合不活化ワクチン(シード)												
ジステンパー・犬アデノウイルス(2型)感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬レプトスピラ病混合ワクチン												
ジステンパー・犬アデノウイルス(2型)感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・犬レプトスピラ病(カニコーラ・イクテロヘモラジー・グリッポチフォーサ・ボモナ)混合(アジュバント加) ワクチン												
ジステンパー・犬アデノウイルス(2型)感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・犬レプトスピラ病(カニコーラ・イクテロヘモラジー・ヘブドマデイス)混合(アジュバント加) ワクチン(シード)												
犬パラインフルエンザ生ワクチン(シード)												
有効成分数が1のもの	0						0					
有効成分数が2のもの	0						0					
有効成分数が3のもの	1						0					
有効成分数が4のもの	0						0					
有効成分数が5のもの	0						0					
有効成分数が6のもの	0						0					
有効成分数が7のもの	0						0					
有効成分数が8のもの	0						0					
有効成分数が9のもの	0						0					
有効成分数が10のもの	0						0					
有効成分数が1のもの(シード)	0						0					
有効成分数が2のもの(シード)	0						0					
有効成分数が3のもの(シード)	0						0					
有効成分数が4のもの(シード)	1						1					
有効成分数が5のもの(シード)	0						0					
有効成分数が6のもの(シード)	0						0					
有効成分数が7のもの(シード)	0						0					
有効成分数が8のもの(シード)	0						0					
有効成分数が9のもの(シード)	2						3					
有効成分数が10のもの(シード)	0						0					
犬用ワクチン小計	17			0			25			0		
猫免疫不全ウイルス感染症(アジュバント加)不活化ワクチン												
猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症・猫汎白血球減少症混合生ワクチン												
有効成分数が1のもの	0						0					
有効成分数が2のもの	1						0					
有効成分数が3のもの	1						0					
有効成分数が4のもの	0						0					
有効成分数が5のもの	0						0					
有効成分数が6のもの	0						0					
有効成分数が7のもの	0						0					
有効成分数が8のもの	0						0					
有効成分数が9のもの	0						0					
有効成分数が10のもの	0						0					
有効成分数が1のもの(シード)	0						0					

一般的名称又は製剤の概要	令和5年度						令和6年度					
	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位
有効成分数が2のもの(シード)	0						0					
有効成分数が3のもの(シード)	0						0					
有効成分数が4のもの(シード)	0						0					
有効成分数が5のもの(シード)	0						0					
有効成分数が6のもの(シード)	0						0					
有効成分数が7のもの(シード)	0						0					
有効成分数が8のもの(シード)	0						0					
有効成分数が9のもの(シード)	0						0					
有効成分数が10のもの(シード)	0						0					
猫用ワクチン小計	2			0			0			0		
小 計	234			0			294			0		
診断液												
牛ウイルス性下痢診断用酵素抗体反応キット	3	87,584	検体				3	84,088	検体			
牛伝染性リンパ腫診断用酵素抗体反応キット	6	285,560	検体				4	246,180	検体			
牛伝染性リンパ腫診断用リアルタイムポリメラーゼ連鎖反応キット	0											
カンピロバクター病診断用菌液	0											
カンピロバクター病診断用蛍光抗体	1	232	mL									
牛肺疫診断用補体結合反応抗原	0											
口蹄疫診断用金コロイド標識抗体反応キット	1	6,005	検体				1	6,000	検体			
炭疽診断用沈降反応血清	1	970	mL				0					
ツベルクリン	0						1	3,980	mL			
ブルセラ症急速診断用菌液			mL				0					
ブルセラ症診断用菌液	1	4,440	mL				0					
ブルセラ症診断用抗原固相化酵素抗体反応キット	1	13,680	検体				1	12,960	検体			
ブルセラ症診断用補体結合反応抗原	1	515	mL				0					
ヨーニン	1	2,480	mL				0					
ヨーネ病診断用抗原固相化酵素抗体反応キット(不活化マイコバクテリウム・フレイ菌可溶性たん白吸収剤)(予備的検出用)	2	253,053	検体				3	361,956	検体			
ヨーネ病診断用抗原固相化酵素抗体反応キット(予備的検出用)	3	417,600	検体				4	488,085	検体			
ヨーネ病診断用補体結合反応抗原	1	101	mL				0		mL			
ヨーネ病診断用リアルタイムポリメラーゼ連鎖反応キット(インターカレーション法)	5	98,000	mL				2	20,400	検体			
ヨーネ病診断用リアルタイムポリメラーゼ連鎖反応キット(ハイブリダイゼーション法)	4	24,700	mL				4	48,700	検体			
アナプラズマ症診断用補体結合反応抗原	0						0					
牛海綿状脳症診断用酵素抗体反応キット(ワンポット前処理法)	2	29,856	テスト				2	20,064	テスト			
牛用診断液小計	33			0			25			0		
馬伝染性貧血診断用沈降反応抗原	0						0					
馬バラチフス診断用菌液	1	1,695	mL				0					
馬用診断液小計	1			0			0			0		
オーエスキュー病ウイルス糖たん白gI抗体識別用酵素抗体反応キット(抗原吸着・ベルオキシダーゼ標識抗体)	5	69,420	検体				3	55,536	検体			
オーエスキュー病診断用酵素抗体反応キット(予備的検出用)	4	82,990	検体				5	70,090	検体			
オーエスキュー病診断用ラテックス凝集反応抗原	2	1,045.0	mL				2	828.0	mL			
豚熱診断用蛍光抗体	1	1,935	検体				1	1,410	検体			
豚熱診断用酵素抗体反応キット(間接法)	4	257,840	検体				4	258,280	検体			
豚熱診断用酵素抗体反応キット(競合法)							2	136,160	検体			
豚用診断液小計	16			0			17			0		

一般的名称又は製剤の概要	令和5年度						令和6年度					
	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位	合格 件数	合格量	単位	不合格 件数	不合格量	単位
精製鳥型ツベルクリン	0						0					
A型インフルエンザ診断用ラテックス標識抗体反応キット	0						0					
A型インフルエンザ診断用酵素標識抗体反応キット	2	38,280	テスト				3	64,360	テスト			
鳥インフルエンザ診断用酵素標識抗体反応キット												
鳥インフルエンザ診断用酵素標識抗体反応キット（競合法）	2	176,640	検体				2	155,940	検体			
ひな白痢急速診断用菌液	1	15,240	mL				0					
鶏用診断液小計	5			0			5			0		
犬エキノコックス症診断用ラテックス標識抗体反応キット												
犬用診断液小計	0			0			0			0		
小 計	55			0			47			0		
合 計	290			△3			341			△2		

△ : 検定中止

* : 検定中

(注) 令和6年度の合格件数及び不合格件数は、令和7年9月30日現在の件数。

4. 過去4年間の検定成績

※令和4年9月に製造・試験記録等要約書審査制度に移行したため、検定を書面審査のみで実施するものは、有効成分数でとりまとめています。

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
血 清								
・破傷風抗毒素	1	0	1	0				
・有効成分数が1のもの					1	0	0	0
小 計	1	0	1	0	1	0	0	0
ワクチン								
・牛クロストリジウム・ボツリヌス（C・D型）感染症（アジュバント加）トキシイド（シード）	1	0	2	0				
・牛疫生ワクチン（シード）	0	0	0	0	1	0	0	0
・牛伝染性鼻気管炎・牛パラインフルエンザ混合生ワクチン（シード）	4	0	0	0				
・牛伝染性鼻気管炎・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症混合生ワクチン（シード）	6	0	5	0				
・アカバネ病・チュウザン病・アイノウイルス感染症・ピートンウイルス感染症混合（アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・アカバネ病・チュウザン病・アイノウイルス感染症混合（アジュバント加）不活化ワクチン	1	0	2	0				
・牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症混合（アジュバント加）不活化ワクチン	6	0	6	0				
・牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症・牛アデノウイルス感染症混合生ワクチン	4	△1	6	0				
・牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症・牛アデノウイルス感染症混合生ワクチン	2	0	3	0				
・牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症・牛アデノウイルス感染症混合ワクチン	4	1	6	0				
・牛サルモネラ症（サルモネラ・ダブリン・サルモネラ・ティフィムリウム）（アジュバント加）不活化ワクチン	2	0	4	0				
・牛大腸菌性下痢症（K99保有全菌体・FY保有全菌体・31A保有全菌体・O78全菌体）（アジュバント加）不活化ワクチン	2	0	1	0				
・炭疽生ワクチン（シード）	0	0	2	0	1	0	1	0
・牛レプトスピラ病（アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・ヒストフィルス・ソムニ（ヘモフィルス・ソムナス）感染症・パスツレラ・ムルトシダ感染症・マンヘミア・ヘモリチカ感染症混合（アジュバント加）不活化ワクチン	2	0	3	0				
・乳房炎（黄色ブドウ球菌）・乳房炎（大腸菌）混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	7	0	4	0				
・乳房炎（黄色ブドウ球菌）・乳房炎（大腸菌）混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）			3	0				
・牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢-粘膜病・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症・牛アデノウイルス感染症・牛ヒストフィルス・ソムニ（ヘモフィルス・ソムナス）感染症混合（アジュバント加）ワクチン	0	0	0	0				
・馬インフルエンザ不活化ワクチン	3	0	3	0				

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
・馬ウイルス性動脈炎不活化ワクチン（アジュバント加溶解用液）	0	0	1	0				
・馬鼻肺炎生ワクチン	0	0	0	0				
・馬鼻肺炎生ワクチン（シード）	2	0	2	0				
・日本脳炎・ゲタウイルス感染症混合不活化ワクチン（シード）	2	0	1	0	2	0	1	0
・馬インフルエンザ不活化・日本脳炎不活化・破傷風トキソイド混合（アジュバント加）ワクチン	4	0	3	0	4	△1	4	0
・豚熱生ワクチン（シード）	21	0	21	0	34	△1	40	△1
・日本脳炎生ワクチン（シード）	2	0	2	0	2	0	2	0
・日本脳炎不活化ワクチン（シード）	1	0	1	0	2	0	2	0
・日本脳炎（アジュバント加）不活化ワクチン	2	0	2	0	2	0	3	0
・豚オーエスキー病（gl-、tk+）生ワクチン（酢酸トコフェロールアジュバント加溶解用液）	2	0	0	0				
・豚サーコウイルス（2型）感染症（1型-2型キメラ）（デキストリン誘導体アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・豚サーコウイルス（2型）感染症（1型-2型キメラ、1型-2b型キメラ）（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	3	0	1	0				
・豚サーコウイルス（2型）感染症（1型-2型キメラ）・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1	0	0	0				
・豚サーコウイルス（2型）感染症（1型-2型キメラ、1型-2b型キメラ）・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	2	0	1	0				
・豚サーコウイルス（2型・組換え型）感染症（酢酸トコフェロール・油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・豚サーコウイルス（2型・組換え型）感染症（酢酸トコフェロール・油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	2	0	3	0				
・豚サーコウイルス（2型）感染症不活化ワクチン（油性アジュバント加懸濁用液）	1	0	1	0				
・豚伝染性胃腸炎生ワクチン（母豚用）	0	0	0	0				
・豚バルボウイルス感染症生ワクチン	2	0	0	0				
・豚バルボウイルス感染症不活化ワクチン	1	0	0	0				
・豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン	0	0	0	0				
・豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン（シード）	2	0	4	0				
・豚繁殖・呼吸障害症候群（油性アジュバント加）不活化ワクチン	2	0	0	0				
・日本脳炎・豚バルボウイルス感染症混合生ワクチン	2	0	1	0	2	0	1	0
・日本脳炎・豚バルボウイルス感染症混合生ワクチン（シード）			2	0	1	0	1	0
・豚伝染性胃腸炎・豚流行性下痢混合生ワクチン	1	0	3	0				
・日本脳炎・豚バルボウイルス感染症・豚ゲタウイルス感染症混合生ワクチン（シード）	2	0	2	0	1	0	2	0
・豚丹毒全菌体（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	1	0	1	0				
・豚丹毒（アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・豚丹毒（アジュバント加）ワクチン（組換え型）	0	0	0	0				

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
・豚丹毒(酢酸トコフェロールアジュバント加)不活化ワクチン	2	0	0	0				
・豚アクチノバシラス・ブルロニューモニエ(1・2・5型、組換え型毒素)感染症(アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0				
・豚アクチノバシラス・ブルロニューモニエ(1・2・5型、組換え型毒素)感染症(アジュバント・油性アジュバント加)不活化ワクチン	2	0	2	0				
・豚アクチノバシラス・ブルロニューモニエ(1・2・5型、組換え型毒素)感染症・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症混合(アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0				
・豚アクチノバシラス・ブルロニューモニエ感染症(1型部分精製・無毒化毒素)・豚丹毒混合(トコフェロール酢酸エステルアジュバント加)不活化ワクチン(シード)			3	0				
・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症(カルボキシビニルポリマーアジュバント加)不活化ワクチン	2	0	1	0				
・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症(アジュバント・油性アジュバント加)不活化ワクチン	2	0	2	0				
・豚増殖性腸炎生ワクチン	4	0	3	0				
・ボルデテラ・ブロンキセプチカ・パスツレラ・ムルトシダ混合(アジュバント加)トキソイド(組換え型)	1	0	1	0				
・豚ボルデテラ感染症精製(アフィニティークロマトグラフィー部分精製)・パスツレラ・ムルトシダトキソイド・豚丹毒(組換え型)混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0				
・ボルデテラ・ブロンキセプチカトキソイド・パスツレラ・ムルトシダトキソイド・豚丹毒混合(アジュバント加)ワクチン(組換え型)	3	0	4	0				
・不活化ボルデテラ・ブロンキセプチカ・遺伝子組換え型パスツレラ・ムルトシダ精製毒素混合(アジュバント加)ワクチン	1	0	2	0				
・豚インフルエンザ・豚丹毒混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン	5	0	6	0				
・豚サーコウイルス(2型・組換え型)感染症・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症混合(カルボキシビニルポリマーアジュバント加)不活化ワクチン	1	0	0	0				
・豚サーコウイルス(2型・組換え型)感染症・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症混合(アジュバント・油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)	5	0	5	0				
・豚サーコウイルス(2型・組換え型)感染症(カルボキシビニルポリマーアジュバント加)・豚繁殖・呼吸障害症候群・マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症(カルボキシビニルポリマーアジュバント加)混合ワクチン	4	0	2	0				
・浮腫病(組換え型毒素Stx2eA)(アジュバント加)不活化ワクチン(シード)	4	0	2	0				
・浮腫病(アジュバント加)トキソイド(組み換え型)(シード)	2	0	3	0				
・産卵低下症候群-1976(油性アジュバント加)不活化ワクチン	1	0	3	0				
・鳥インフルエンザ(油性アジュバント加)不活化ワクチン	1	0	1	0	1	0	1	0
・トリニューモウイルス感染症生ワクチン	1	0	4	0				

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
・トリニューモウイルス感染症(油性アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	1	0				
・トリレオウイルス感染症(油性アジュバント加)不活化ワクチン	2	0	1	0				
・ニューカッスル病生ワクチン(シード)	15	0	11	0	10	0	12	0
・鶏伝染性気管支炎生ワクチン	3	0	0	0				
・鶏伝染性気管支炎生ワクチン(シード)	5	0	1	0				
・鶏伝染性ファブリキウス嚢病凍結生ワクチン(シード)	3	0	3	0				
・鶏伝染性ファブリキウス嚢病(抗血清加)生ワクチン	2	0	1	0				
・鶏伝染性ファブリキウス嚢病生ワクチン(ひな用中等毒)	0	0	2	0				
・鶏伝染性ファブリキウス嚢病・マレック病(鶏伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス由来VP2由来遺伝子導入七面鳥ヘルペスウイルス)凍結生ワクチン(シード)	2	0	1	0				
・マレック病(マレック病ウイルス1型)凍結生ワクチン	1	0	1	0				
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎混合生ワクチン(シード)	27	0	23	0	17	0	21	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)	1	0	2	0	1	0	2	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0	0		0	
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)	0	0	1	0	0		0	
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・産卵低下症候群-1976混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0	1	0	7	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性ファブリキウス嚢病混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)	0	0	0	0	0		0	
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・産卵低下症候群-1976・トリニューモウイルス感染症混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン	2	0	1	0	0		3	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・産卵低下症候群-1976・トリニューモウイルス感染症混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0	0	0	0	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性ファブリキウス嚢病・産卵低下症候群-1976混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0	0	0	0	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性ファブリキウス嚢病・トリニューモウイルス感染症混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン	1	0	1	0	1	0	1	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性ファブリキウス嚢病・トリレオウイルス感染症混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)	1	0	2	0	0	0	1	0
・鶏サルモネラ症(サルモネラ・エンテリティディス)(油性アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0				
・鶏サルモネラ症(サルモネラ・エンテリティディス・サルモネラ・ティフィムリウム)(アジュバント加)不活化ワクチン	0	0	0	0				
・鶏サルモネラ症(サルモネラ・インファンティス・サルモネラ・エンテリティディス・サルモネラ・ティフィムリウム)(油性アジュバント加)不活化ワクチン	4	0	3	0				

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
・鶏サルモネラ症（サルモネラ・インファンティス抽出抗原・サルモネラ・エンテリテイデイス抽出抗原・サルモネラ・ティフィウム抽出抗原）（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	2	0	3	0				
・鶏サルモネラ症（サルモネラ・インファンティス・サルモネラ・エンテリテイデイス・サルモネラ・ティフィウム）（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・鶏大腸菌症生ワクチン	1	0	0	0				
・鶏大腸菌症生ワクチン（シード）			1	0				
・鶏大腸菌症（O78 全菌体破碎処理）（脂質アジュバント加）不活化ワクチン	1	0	2	0				
・鶏大腸菌症（組換え型 F11 線毛抗原・ペロ細胞毒性抗原）（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1	0	1*	0*				
・鶏コクシジウム感染症（ネカトリックス）生ワクチン	0	0	0	0				
・鶏コクシジウム感染症（アセルプリナ・テネラ・マキシマ）混合生ワクチン	0	0	0	0				
・鶏コクシジウム感染症（アセルプリナ・テネラ・マキシマ・ミチス）混合生ワクチン	0	0	0	0				
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・鶏伝染性コリーザ（A・C型）液状混合（アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	0	0	0	0	0	0	0	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・鶏伝染性コリーザ（A・C型菌処理）混合（アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	1	0	1	0	0	0	0	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・鶏伝染性コリーザ（A・C型）混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	5	0	2	0	2	0	2	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性コリーザ（A・C型）混合（アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	3	0	2	0	3	0	3	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性コリーザ（A・C型組換え融合抗原）混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1	0	1	0	0	0	0	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎3価・鶏伝染性コリーザ（A・C型）混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	0	0	0	0	0	0	0	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎・鶏伝染性コリーザ（A・C型）・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）	4	0	3	0	6	△1	4	△1
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・鶏伝染性コリーザ（A・C型組換え融合抗原）・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	1	0	0	0	0	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎2価・産卵低下症候群-1976・鶏伝染性コリーザ（A・C型組換え融合抗原）・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	7	0	8	0	2	0	4	0
・ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎3価・産卵低下症候群-1976・鶏伝染性コリーザ（A・C型）・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0	0	0	0	0
・イリドウイルス病不活化ワクチン	1	0	0	0				
・イリドウイルス病（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・まはたウイルス性神経壊死症不活化ワクチン	0	0	0	0				

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
・さけ科魚類ビブリオ病不活化ワクチン	0	0	0	0				
・ひらめエドワジエラ症（多糖アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・ひらめβ溶血性レンサ球菌症不活化ワクチン	1	0	1	0				
・ぶりα溶血性レンサ球菌症不活化ワクチン（注射型）	0	0	0	0				
・ぶりα溶血性レンサ球菌症（酵素処理）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・ぶりα溶血性レンサ球菌症2価不活化ワクチン	0	0	0	0				
・ひらめストレプトコッカス・パラウベリス（I型・II型）感染症・β溶血性レンサ球菌症混合不活化ワクチン	0	0	0	0				
・ぶりα溶血性レンサ球菌症・類結節症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・ぶりビブリオ病・α溶血性レンサ球菌症混合不活化ワクチン	1	0	0	0				
・ぶりビブリオ病・α溶血性レンサ球菌症・類結節症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・イリドウイルス病・β溶血性レンサ球菌症混合不活化ワクチン	0	0	3	△1				
・イリドウイルス病・ぶりビブリオ病・α溶血性レンサ球菌症混合不活化ワクチン	1	0	2	0				
・イリドウイルス病・ぶりビブリオ病・α溶血性レンサ球菌症2価混合不活化ワクチン	1	0	1	0				
・イリドウイルス病・ぶりビブリオ病・α溶血性レンサ球菌症・類結節症混合（多糖アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・イリドウイルス病・ぶりビブリオ病・α溶血性レンサ球菌症・類結節症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・イリドウイルス病・ぶりビブリオ病・α溶血性レンサ球菌症2価・類結節症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	3	0	1	0				
・かわはぎα溶血性レンサ球菌症・β溶血性レンサ球菌症混合不活化ワクチン	1	0	0	0				
・狂犬病組織培養不活化ワクチン（シード）	13	0	13	0	13	0	21	0
・ジステンパー・犬パルボウイルス感染症混合生ワクチン	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パルボウイルス感染症混合生ワクチン	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症混合生ワクチン	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症混合（アジュバント加）ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症混合（コポリマーアジュバント加）ワクチン	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症混合ワクチン	0	0	0	0				
・犬レプトスピラ病（カニコーラ・イクテロヘモラジー・グリッポチフォーサ・ポモナ）不活化ワクチン（アジュバント加溶解用液）（シード）	1	0	2	0				

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
・犬レプトスピラ病（カニコーラ・コペンハーゲニー・ヘブドマデイス・オーストラリス・オーストラリス）不活化ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬ボルデテラ感染症（部分精製赤血球凝集素）混合不活化ワクチン（シード）	0	0	1	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬レプトスピラ病混合ワクチン	3	0	1	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・犬レプトスピラ病混合ワクチン	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・犬レプトスピラ病（カニコーラ・イクテロヘモラジー）	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・犬レプトスピラ病（カニコーラ・コペンハーゲニー・ヘブドマデイス）混合ワクチン	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・犬レプトスピラ病（カニコーラ・イクテロヘモラジー・グリッポチフォーサ・ポモナ）混合（アジュバント加）ワクチン	2	0	5	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・犬レプトスピラ病（カニコーラ・イクテロヘモラジー・ヘブドマデイス）混合（アジュバント加）ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症・犬レプトスピラ病（カニコーラ・コペンハーゲニー・ヘブドマデイス・オーストラリス）混合ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・犬パラインフルエンザ生ワクチン（シード）	2	0	0	0				
・猫白血病（アジュバント加）ワクチン（組換え型）	0	0	0	0				
・猫免疫不全ウイルス感染症（アジュバント加）不活化ワクチン	2	0	1	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症・猫汎白血球減少症混合生ワクチン	5	0	1	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症2価・猫汎白血球減少症混合ワクチン	0	0	0	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症2価・猫汎白血球減少症混合ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症3価・猫汎白血球減少症混合ワクチン（シード）	0	0	0	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症・猫汎白血球減少症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1	0	0	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症2価・猫汎白血球減少症・猫白血病（猫白血病ウイルス由来防御抗原たん白遺伝子導入カナリア痘ウイルス）混合ワクチン	0	0	0	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症3価・猫汎白血球減少症・猫白血病（組換え型）混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症・猫汎白血球減少症・猫白血病・猫クラミジア感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1	0	0	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症2価・猫汎白血球減少症・猫白血病（猫白血病ウイルス由来防御抗原たん白遺伝子導入カナリア痘ウイルス）・猫クラミジア感染症混合ワクチン	0	0	0	0				
・猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症3価・猫汎白血球減少症・猫白血病（組換え型）・猫クラミジア感染症混合（油性アジュバント加）不活化ワクチン	0	0	0	0				
・犬パラインフルエンザ生ワクチン（シード）	2	0	0	0				
・有効成分数が1のもの					15	0	21	0
・有効成分数が2のもの					13	0	13	
・有効成分数が3のもの					14	0	17	
・有効成分数が4のもの					1	0	0	
・有効成分数が5のもの					15	0	13	
・有効成分数が6のもの					9	0	8	
・有効成分数が7のもの					0	0	0	
・有効成分数が8のもの					0	0	0	
・有効成分数が9のもの					0	0	0	
・有効成分数が10のもの					0	0	0	
・有効成分数が1のもの（シード）					18	0	24	
・有効成分数が2のもの（シード）					19	0	23	
・有効成分数が3のもの（シード）					16	0	13	
・有効成分数が4のもの（シード）					2	0	3	
・有効成分数が5のもの（シード）					4	0	19	
・有効成分数が6のもの（シード）					0	0	2	
・有効成分数が7のもの（シード）					0	0	0	
・有効成分数が8のもの（シード）					0	0	0	
・有効成分数が9のもの（シード）					2	0	3	
・有効成分数が10のもの（シード）					0	0	0	
小 計	277	1 △1	257	△1	237	△1	298	△2
診断液								
・牛ウイルス性下痢診断用酵素抗体反応キット	4	0	4	0	3	0	3	0
・牛伝染性リンパ腫診断用受身赤血球凝集反応抗原	0	0	0	0	0	0	0	0
・牛伝染性リンパ腫診断用酵素抗体反応キット	6	0	9	0	6	0	4	0
・牛伝染性リンパ腫診断用リアルタイムポリメラーゼ連鎖反応キット	0	0	0	0	0	0	0	0
・カンピロバクター病診断用菌液	0	0	0	0	1	0	0	0
・カンピロバクター病診断用蛍光抗体	1	0	0	0	0	0	0	0
・牛肺疫診断用補体結合反応抗原	0	0	0	0	0	0	0	0
・口蹄疫診断用金コロイド標識抗体反応キット	1	0	1	0	1	0	1	0
・炭疽診断用沈降反応血清	0	0	1	0	1	0	0	0
・ツベルクリン	1	0	0	0	0	0	1	0
・ブルセラ症急速診断用菌液	0	0	0	0	0	0	0	0

一般的名称又は製剤の概要	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格	受付	不合格
・ブルセラ症診断用菌液	1	0	1	0	1	0	0	0
・ブルセラ症診断用抗原固相化酵素抗体反応キット	0	0	2	0	1	0	1	0
・ブルセラ症診断用補体結合反応抗原	1	0	1	0	1	0	0	0
・ヨーニン	0	0	1	0	1	0	0	0
・ヨーネ病診断用抗原固相化酵素抗体反応キット（不活化マイコバクテリウム・フレイ菌可溶化たん白吸収剤）（予備的検出用）	3	0	5	0	2	0	3	0
・ヨーネ病診断用抗原固相化酵素抗体反応キット（予備的検出用）	2	0	1	0	3	0	4	0
・ヨーネ病診断用補体結合反応抗原	0	0	1	0	1	0	0	0
・ヨーネ病診断用リアルタイムポリメラーゼ連鎖反応キット（インターカレーション法）	3	0	4	0	5	0	2	0
・ヨーネ病診断用リアルタイムポリメラーゼ連鎖反応キット（ハイブリダイゼーション法）					4	0	4	0
・アナプラズマ症診断用補体結合反応抗原	0	0	0	0	0	0	0	0
・牛海綿状脳症診断用酵素抗体反応キット（ワンポット前処理法）	2	0	3	0	2	0	2	0
・馬伝染性貧血診断用沈降反応抗原	1	0	0	0	0	0	0	0
・馬バラチフス診断用菌液	1	0	1	0	1	0	0	0
・オーエスキー病ウイルス糖たん白gI抗体識別用酵素抗体反応キット（抗原吸着・ペルオキシダーゼ標識抗体）	4	0	3	0	5	0	3	0
・オーエスキー病診断用酵素抗体反応キット（予備的検出用）	4	0	4	0	4	0	5	0
・オーエスキー病診断用ラテックス凝集反応抗原	3	0	1	0	2	0	2	0
・豚熱診断用蛍光抗体	2	0	1	0	1	0	1	0
・豚熱診断用酵素抗体反応キット（間接法）	5	0	4	0	4	0	4	0
・豚熱診断用酵素抗体反応キット（競合法）							2	0
・精製鳥型ツベルクリン	1	0	0	0	0	0	0	0
・A型インフルエンザ診断用ラテックス標識抗体反応キット	0	0	0	0	0	0	0	0
・A型インフルエンザ診断用酵素標識抗体反応キット	1	0	6	0	2	0	3	0
・鳥インフルエンザ診断用酵素標識抗体反応キット	0	0	0	0	0	0	0	0
・鳥インフルエンザ診断用酵素標識抗体反応キット（競合法）	2	0	3	0	2	0	2	0
・ひな白痢急速診断用菌液	0	0	1	0	1	0	0	0
・犬エキノコックス症診断用ラテックス標識抗体反応キット	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	49	0	58	0	55	0	47	0
合計	327	1 △1	316	△1	293	△3	345	△2

△：検定中止

*：検定中

（注）令和4年度不合格及び検定中止は、令和6年12月31日現在の件数。

5. 令和6年度に承認・承認事項変更承認された検定対象の生物学的製剤

(1) 製造販売承認されたもの

No	品名	製造販売業者	承認年月日	備考※
1	ボビサントアカバネ	明治アニマルヘルス株式会社	R6.5.29	
2	IDEXX CSFV エリーザキット**	アイデックス ラボラトリーズ株式会社	R6.6.28	
3	スワインテクト AP15-ME	日生研株式会社	R6.8.21	
4	ノビリス リスマバック 2000	MSD アニマルヘルス株式会社	R6.9.30	
5	マイオスフィア PCV ID	イブラ・ジャパン合同会社 LABORATORIOS HIPRA, S.A.	R6.10.4	
6	スワインテクト CSF	日生研株式会社	R6.11.26	SL
7	マリンジェンナー II型レンサ	バイオ科学株式会社	R6.12.25	
8	ノビバック DHPPi+L4	MSD アニマルヘルス株式会社	R7.2.26	
9	ノビバック L4	MSD アニマルヘルス株式会社	R7.2.27	
10	狂犬病 TC ワクチン「明治」	KM バイオロジクス株式会社	R7.3.3	SL
11	ピシバック 注 レンサ a3 oil	共立製薬株式会社	R7.3.21	

※シードロット製剤については備考欄に「SL」と記載。 ※※体外診断用医薬品

(2) シードロット製剤として承認事項変更承認されたもの（再審査中のもの）

No	品名	製造販売業者	承認年月日	備考
	該当なし			

6. 令和6年度に承認された検定対象外の生物学的製剤

(1) 検定対象外のシードロット製剤

No.	品名	一般的名称	製造販売業者	承認年月日
1	犬用ビルバゲン DA2PPi	ジステンパー・犬アデノウイルス（2型）感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症混合生ワクチン（シード）	株式会社ビルバック ジャパン	R6.5.13
2	ノビリス Gumboro D78 SPH 5000	鶏伝染性ファブリキウス囊病生ワクチン（ひな用）（シード）	MSD アニマルヘルス 株式会社	R6.7.11
3	ノビリス Gumboro D78 SPH 1000	鶏伝染性ファブリキウス囊病生ワクチン（ひな用）（シード）	MSD アニマルヘルス 株式会社	R6.7.11
4	ガリバック IB88 ネオ 1000	鶏伝染性気管支炎生ワクチン（シード）	ベーリンガーインゲル ハイムアニマルヘルス ジャパン株式会社	R6.8.28
5	ガリバック IB88 ネオ 2000	鶏伝染性気管支炎生ワクチン（シード）	ベーリンガーインゲル ハイムアニマルヘルス ジャパン株式会社	R6.8.28
6	ノビリス Gumboro 228E SPH 1000	鶏伝染性ファブリキウス囊病生ワクチン（ひな用中等毒）（シード）	MSD アニマルヘルス 株式会社	R7.2.14
7	ノビリス Gumboro 228E SPH 5000	鶏伝染性ファブリキウス囊病生ワクチン（ひな用中等毒）（シード）	MSD アニマルヘルス 株式会社	R7.2.14

(2) 診断液

No.	品名	一般的名称	製造販売業者	承認年月日
1	「京都微研」牛下痢症4種抗原検出キット	—	株式会社微生物化学 研究所	R7.3.21

7. ワクチンの総品目数におけるシードロット製剤として承認された品目数

(令和7年3月31日時点)

	牛用	馬用	豚用	鶏用	犬用	猫用	魚用	合計
総品目数	62	18	107	184	26	17	30	444
シードロット承認品目数	30	4	74	150	22	8	3	291
検 定 別 内 訳	検定対象外	21	2	45	109	13	2	200
	検定対象							
	再審査中	7	1	17	10	4	0	40
	再審査終了・家畜伝染病等	2	1	12	31	5	0	51

対象動物が複数ある製剤についてはそれぞれ牛用製剤、豚用製剤、犬用製剤として計算。

【牛用】 破傷風（アジュバント加）不活化トキソイド（シード）、炭疽生ワクチン及び炭疽生ワクチン（シード）

【豚用】 日本脳炎（アジュバント加）不活化ワクチン、日本脳炎不活化ワクチン（シード）

【犬用】 狂犬病組織培養不活化ワクチン（シード）

8. 令和6年度検査命令による検査成績

動物用血液型判定用抗体検査命令実施要領に基づく検査

製 剤 区 分	受付件数	検査結果		備 考
		適	不適	
動物用血液型判定抗体	0	0	0	
合 計	0	0	0	

9. 令和6年度動物用医薬品の収去検査結果

(1) 一般医薬品（再審査中の品目含む、国及び県の薬事監視員による収去）

薬 効 群 別 分 類	収去 件数	検査結果			備 考
		合格	要指導・不備事項	不合格	
防虫剤・殺虫剤	2	2			
繁殖用薬	1	1			
駆虫薬	1	1			
外用剤	1		1		
抗原虫剤	1		1		
合 計	6	4	2	0	

(2) 生物学的製剤（県の薬事監視員による収去）

製 剤 区 分	収去 件数	検査結果			備 考
		合格	要指導・不備事項	不合格	
シードロット製剤（細菌ワクチン類）	1	1			
シードロット製剤（ウイルスワクチン類）	1	1			
シードロット製剤（その他のワクチン類）	0				
体外診断薬等	1	1			
合 計	3	3	0	0	

(3) 抗菌性物質製剤（国及び県の薬事監視員による収去）

製剤区分	収去 件数	検査結果			備考
		合格	要指導・不備事項	不合格	
抗菌性物質製剤	3	3			
合計	3	3	0	0	

注) (1)～(3) 共通

1) 不合格：法第56条等の各条項に抵触するもの

2) 要指導・不備事項：検査結果は合格（集計上は「合格」の外数）であるが、表示等の不備を伴うもの

10. 動物用医薬品依頼試験検査受付件数

(1) 一般依頼試験検査

	受付件数			備考
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
生物学的製剤	0	0	0	
抗菌性物質製剤	0	0	0	

(2) 同等性確認検査

	受付件数			備考
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
生物学的製剤	2 (0)	0 (0)	4 (0)	

注：() 内は、受付件数のうち同等と判断されなかった件数

II 承認審査及びその関連

1. 令和6年度新動物用医薬品の製造販売承認一覧

新動物用医薬品：法第14条の4第1項第1号の規定に基づく新医薬品（事項変更承認を含む）

(1) 動物用生物学的製剤（体外診断用医薬品を含む。）

No.	品名	製造販売業者	承認年月日
* 1	IDEXX CSFV エリーザキット	アイデックス ラボラトリーズ株式会社	R6.6.28
○ 2	スワインテクト AP15-ME	日生研株式会社	R6.8.21
○ 3	マイオスフィア PCV ID	LABORATORIOS HIPRA, S.A. (イプラ・ジャパン合同会社)	R6.10.4
○ 4	マリンジェンナー II 型レンサ	バイオ科学株式会社	R6.12.25
○ 5	ノビバック DHPPi+L4	MSD アニマルヘルス株式会社	R7.2.26
○ 6	ノビバック L4	MSD アニマルヘルス株式会社	R7.2.27
○ 7	ピシバック 注 レンサ a 3 oil	共立製薬株式会社	R7.3.21
* 8	「京都微研」牛下痢症4種抗原検出キット	株式会社微生物化学研究所	R7.3.21

○はワクチン、事項変更承認（新薬指示付き）：該当なし、*は体外診断用医薬品
 (注) 上記以外（後発品等）の新規承認件数は11件

(2) 動物用一般医薬品（体外診断用医薬品を含む。）

No.	品名	製造販売業者	承認年月日
1	牛用プロナミド散2%	物産アニマルヘルス株式会社	R6.5.30
2	クレボル	物産アニマルヘルス株式会社	R6.6.19
* 3	チェックマン NT-proANP	共立製薬株式会社	R6.7.25
4	ゼンレリア錠 4.8mg、同 6.4mg、 同 8.5mg、同 15mg	エランコジャパン株式会社	R6.10.31
5	バイオネンネ	バイオ科学株式会社	R7.2.21

事項変更承認（新薬指示付き）：該当なし、*は体外診断用医薬品
 (注) 上記以外（後発品等）の新規承認件数は18件（体外診断用医薬品を含む。）

(3) 動物用抗菌性物質製剤

No.	品名	製造販売業者	承認年月日
1	ドラクシン KP	ゾエティス・ジャパン株式会社	R6.4.11
2	フォーシル S	明治アニマルヘルス株式会社	R6.5.8

(注) 上記以外（後発品等）の新規承認件数は9件

2. 令和6年度動物用医療機器の製造販売承認一覧

No.	品名	製造販売業者	承認年月日
1	動物用麻酔器 mindray Veta3	クロス・メディカルサービス株式会社	R6.4.9
2	TTA toy システム	ヤマウチマテックス・エンジニアリング株式会社	R6.10.24
3	動物用酸素濃縮装置クリネア-smart-plus	テルコム株式会社	R6.12.3
4	トップ動物用輸液ポンプ TOP-i20V	株式会社トップ	R7.2.12
5	フィッシュテック NFT25	ゾエティス・ジャパン株式会社	R7.2.25

注) いずれも後発医療機器

3. 令和6年度再生医療等製品の製造販売承認一覧

No.	品名	製造販売業者	承認年月日
	該当なし		

4. 動物用医薬品等の事項変更承認件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
動物用生物学的製剤	45	52	56	39
動物用一般医薬品	100	142	91	105
動物用抗菌性物質製剤	56	50	52	25
動物用医療機器	6	6	15	10
再生医療等製品	1	1	1	0

注) 一般医薬品及び抗菌性物質製剤については、新薬指示を付した効能追加及び用法追加による事項変更は含まない。

5. 動物用医薬品等の軽微変更届受付件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
動物用生物学的製剤	171	156	161	159
動物用一般医薬品	267	226	290	298
動物用抗菌性物質製剤	77	112	126	239
動物用医療機器	17	16	16	19
再生医療等製品	0	1	2	0

注) 当該年度に当所が受付を行った軽微変更届の件数を集計

6. 令和6年度登録原薬等一覧

登録番号	登録等年月日	登録業者の氏名又は名称(住所)	国内管理人の氏名又は名称(住所)	登録品目の名称
27 原薬第1号 (変更登録)	令和7年1月9日	青葉化成株式会社	該当事項なし	アオバガード Q-80
25 原薬第2号 (変更登録)	令和7年1月31日	日産化学株式会社	該当事項なし	フルララネル

7. 令和6年度動物用医薬品等の信頼性基準（GLP、GCP及びGPSP）適合性調査実施状況

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
信頼性基準（GLP）適用報告書を接受した数	25	24	20	18	22	8	21	17	14	7	16	8	13
信頼性基準（GCP）適用報告書を接受した数	23	22	16	16	22	9	18	15	10	5	16	9	12
信頼性基準（GPSP）適用報告書を接受した数	13	10	21	16	16	16	15	29	14	15	10	29	10
書面調査や実地調査が終了し、結果通知書を施行した数	38	28	39	15	25	17	19	26	41	26	20	25	29
GLP 実地調査を実施した施設数	2	1	5	1	3	3	2	6	2	2	2	3	1
GCP 実地調査を実施した施設数	6	5	8	9	10	0	10	9	2	0	4	2	3

8. 令和6年度動物用医薬品等のGMP適合性調査実施状況

			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
動物用 医薬品	適合性調査申請 書を接受した数	承認	141	180	161	174	155	144	171	117	124	154	159	110	144	
		定期	119	160	630	311	238	150	180	530	185	251	154	151	551	
		輸出	8	4	28	2	6	1	8	28	7	3	0	17	8	
	適合性調査が終 了し、結果通知 書を施行した数	承認	235	183	125	175	103	144	149	136	132	150	186	115	93	
		定期	304	145	243	526	183	237	261	406	165	70	180	420	219	
		輸出	8	4	28	2	6	1	8	25	9	3	0	14	9	
	区分適合性調査申請書 を接受した数		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0	2
	区分適合性調査が終了 し、結果通知書を施行 した数		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	0	0
	動物用 再生製 薬等製 品	適合性調査申請 書を接受した数	承認	-	-	-	-	-	1	0	1	0	0	0	0	0
定期			-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1	0	0	
輸出			-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
適合性調査が終 了し、結果通知 書を施行した数		承認	-	-	-	-	-	0	0	0	1	0	0	1	0	
		定期	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	1	0	
		輸出	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
動物用 医療機 器	適合性調査申請 書を接受した数	承認	27	37	21	25	17	11	12	17	4	6	11	11	8	
		定期	27	40	4	21	16	14	9	13	11	13	17	7	16	
		輸出	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
	適合性調査が終 了し、結果通知 書を施行した数	承認	26	30	38	23	11	9	6	14	11	4	5	17	7	
		定期	23	41	6	18	14	13	13	8	12	11	15	12	8	
		輸出	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	
動物用 体外診 断用医 薬品	適合性調査申請 書を接受した数	承認	-	-	0	3	3	3	1	1	3	6	3	6	2	
		定期	-	-	10	11	13	4	3	19	2	11	3	5	18	
		輸出	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	適合性調査が終 了し、結果通知 書を施行した数	承認	-	-	0	1	1	5	2	0	1	0	11	4	2	
		定期	-	-	4	12	2	7	6	6	17	2	9	8	7	
		輸出	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
実地調査を実施した品目数 (適合性調査の場合)			4	3	4	3	3	6	3	3	3	4	3	0	1	
実地調査を実施した製造所数 (区分適合性調査の場合)			-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0	2	

※承認・・・製造販売承認又は事項変更承認申請に伴う適合性調査

※定期・・・定期的に申請する適合性調査

※輸出・・・輸出用医薬品又は医療機器の適合性調査

(注) 動物用体外診断用医薬品は、平成26年の法改正以降、適合性調査対象となった。

(注) 区分適合性調査は、令和3年に施行された改正法により、新たに導入された制度である。

9. 令和6年度治験計画届出状況

(1) 治験計画届出書受付状況

(単位：件数)

区分／年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生物学的製剤	5	6	1
一般薬・抗菌性物質製剤	3	4	4
その他	0	0	1

注) その他にはバイオテクノロジーや遺伝子組換え技術を応用した製品や再生医療等製品、医療機器が含まれる。

(2) 治験計画変更届出書受付状況

(単位：件数)

区分／年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生物学的製剤	11	6	4
一般薬・抗菌性物質製剤	9	12	19
その他	3	0	0

注) その他にはバイオテクノロジーや遺伝子組換え技術を応用した製品や再生医療等製品、医療機器が含まれる。

10. 令和6年度動物用医薬品の再審査実施状況

品名	製造販売業者名	再審査申請日	再審査結果通知日	備考
プロナミドE散1%	物産アニマルヘルス株式会社	H29.9.8	R6.6.18	
“京都微研,, マリナー 4	株式会社微生物化学研究所	R2.3.5	R6.7.2	
“京都微研,, キャトルウィン-BO2	株式会社微生物化学研究所	H28.6.2	R6.12.19	
スワインテクト APX-ME	日生研株式会社	R4.2.18	R6.12.19	
コルタバンス	株式会社ビルバックジャパン	H29.7.13	R7.1.14	
コンセーブ錠 25mg	M S D アニマルヘルス株式会社	R2.11.21	R7.1.14	
コンセーブ錠 100mg	M S D アニマルヘルス株式会社	R2.11.21	R7.1.14	
エピレス錠 10mg	共立製薬株式会社	R2.11.20	R7.1.28	
エピレス錠 20mg	共立製薬株式会社	R2.11.20	R7.1.28	
エピレス錠 40mg	共立製薬株式会社	R2.11.20	R7.1.28	
エピレス錠 80mg	共立製薬株式会社	R2.11.20	R7.1.28	
セボゾールシャンプー	ベトキノールジャパン株式会社	R2.1.14	R7.3.19	

注) 備考欄が空欄の製剤は新薬指示による再審査、記載のあるものは事項変更承認に係る再審査

11. 令和7年度中に再審査期間が終了する動物用医薬品

番号	品名	製造販売業者名	再審査期間	備考
1	スワインテクト PRRS-ME	日生研株式会社	H31.4.17 ~ R7.4.16	
2	サイトポイント 10、同 20、同 30、同 40	ゾエティス・ジャパン株式会社	R1.5.24 ~ R7.5.23	
3	ティーエスブイ 3	ゾエティス・ジャパン株式会社	R1.6.10 ~ R7.6.9	
4	セレニア注	ゾエティス・ジャパン株式会社	R1.6.12 ~ R7.6.11	
5	エクセーデ C	ゾエティス・ジャパン株式会社	R5.6.19 ~ R7.6.18	[有効菌種] トウルエベレラ ピオゲネス (アルカノバクテリウム ピオゲネス)、大腸菌 [適応症] 牛：産褥熱
6	ベトメディン注射液	ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社	R1.6.26 ~ R7.6.25	
7	酢酸リンゲル糖-V注射液	日本全薬工業株式会社	R1.6.26 ~ R7.6.25	
8	ピシバック 注 4	共立製薬株式会社	R1.7.19 ~ R7.7.18	
9	ピシバック 注 5 oil	共立製薬株式会社	R1.7.19 ~ R7.7.18	
10	チモバル	アリスタライフサイエンス株式会社	R1.8.19 ~ R7.8.18	
11	フロントライン トリプルアクト	ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社	R1.8.29 ~ R7.8.28	
12	アレリーフローション	物産アニマルヘルス株式会社	R1.10.4 ~ R7.10.3	
13	ブラバクト錠 1125mg、同 250mg、同 500mg、同 1000mg	MSD アニマルヘルス株式会社	R5.10.23 ~ R7.10.22	
14	ベラフロックス 15mg 錠、同 60mg 錠、同 120mg 錠、同 2.5% 経口懸濁液	エランコジャパン株式会社	R1.12.2 ~ R7.12.1	
15	イノブプレックス MD CVI+HVT	ゾエティス・ジャパン株式会社	R2.1.23 ~ R8.1.22	
16	エクセネル RTU EZ	ゾエティス・ジャパン株式会社	R6.1.31 ~ R8.1.30	[有効菌種] フソバクテリウム ネクロフォーラム、ボルフィロモナス アサッカロリチカ、 [適応症] トウルエベレラ ピオゲネス (アルカノバクテリウム ピオゲネス)、大腸菌 [適応症] 牛：趾間フレグモーネ (趾間ふらん)、産褥熱
17	コルトティック	株式会社 ビルバックジャパン	R6.3.7 ~ R8.3.6	犬の外耳炎

注) 備考欄が空欄の製剤は新薬指示による再審査、記載のあるものは事項変更承認に係る再審査

12. 令和6年度動物用医薬品の再評価業務

※再評価等指定、申請及び結果通知状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
再評価指定された成分	0	0	0
使用成績評価指定された成分	0	0	0
再評価申請された成分	0	0	0
使用成績評価申請された成分	0	0	0
結果を通知した成分	0	0	1

※再評価スクリーニング結果に基づき薬事・食品衛生審議会で審議された成分一覧

年度	対象成分	概要	結果
令和4	なし	-	-
令和5	なし	-	-
令和6	なし	-	-

13. 令和2～令和6年度動物用医薬品等の承認相談受付状況

(単位：件数)

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
抗菌性物質製剤・一般医薬品・医薬部外品	55	56	44	38	64
生物学的製剤	9	5	3	11	12
医療機器	9	8	3	11	13
再生医療等製品	0	0	0	0	0
合計	73	69	50	60	89

14. 令和6年度動物用医薬品等の副作用報告件数

(単位：件)

区分	報告者		
	獣医師等	製造販売業者	計
生物学的製剤	10	132	142
一般医薬品	6	285* ¹	291
抗菌性物質製剤	2	25	27
医療機器	0	2* ²	2
再生医療等製品	0	4	4
人用医薬品	1	0	1
計	19	448	467

※報告者からの報告年月日が令和6年4月1日～令和7年3月31日までの報告件数

※報告後、調査の結果、当該医薬品等との因果関係が否定されたなどとして取下げられた報告は除く。

※平成27年度からすべての症例を副作用データベースで公表

*1 一般薬及び抗菌性物質製剤を併用した際の報告（3件）は、一般薬としてカウントした。

*2 医療機器及び体外診断用医薬品を併用した際の報告（1件）は、医療機器としてカウントした。

15. 令和6年度薬事審議会動物用医薬品等部会及び関連調査会の開催

部会・調査会名*	会議開催日（四半期ごと）				審議件数 (合計)	報告件数 (合計)
	第1	第2	第3	第4		
動物用医薬品等部会	6/5	9/6	11/29	3/5	27	13
動物用生物学的製剤調査会	4/25	8/2	10/29	1/15	11	2
動物用抗菌性物質製剤調査会	—	—	—	—	0	0
動物用一般薬医薬品調査会	4/24	7/30	10/28	1/21	9	0
動物用医薬品再評価調査会	5/25	8/29	11/27	2/22	14	3
動物用医薬品残留問題調査会	4/23	8/1	11/1	1/23	8	0
動物用再生医療等製品・バイオテクノロジー応用医薬品調査会	—	—	—	—	0	0

*：水産用医薬品調査会は畜水産安全管理課水産安全室が主催

Ⅲ 畜水産物の安全性確保と危機管理対策

1. 令和6年度備蓄用ワクチン等の検査実施状況

名称	ロット数	検査項目	検査期間 ¹⁾
口蹄疫不活化予防液（3価）	2ロット	特性試験、pH測定試験、無菌試験、不活化試験、異常毒性否定試験	令和6年5月～6月、 令和7年4月～5月
鳥インフルエンザ（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1ロット	力価試験、製造・試験記録等要約書審査	令和6年8月～10月

1) ワクチン等を購入した年度と一致しない場合がある。

2. 令和6年度動物用医薬品の使用に伴う事故防止・被害対応業務の実施状況

(1) 令和6年度に受けた苦情等の相談

番号	相談者	対象医薬品の種類	相談内容	当所の対応
R6-1	獣医師	動物用生物学的製剤	副作用について	回答
R6-2	一般	動物用一般医薬品	副作用について	回答
R6-3	一般	人用医薬品	副作用について	回答
R6-4	一般	動物用一般医薬品	その他（処方された薬の成分について）	回答
R6-5	一般	動物用一般医薬品	使用方法について	回答
R6-6	その他	その他	その他（副作用報告に関する通知について）	回答
R6-7	一般	動物用抗菌性物質製剤	副作用について	回答
R6-8	一般	動物用生物学的製剤	副作用について	回答

(2) 令和4年～6年度に各都道府県から提供された野外流行株等の収集状況

(単位は株数)

		4年度	5年度	6年度
変異や変遷等の指標となる微生物 ¹⁾	豚繁殖・豚呼吸障害症候群ウイルス	35	32	34
	豚丹毒菌	15	12	21
	豚サーコウイルス2型	28	8	8
	豚サーコウイルス3型	9	3	1
	鶏伝染性気管支炎ウイルス		8	
	マンヘミア・ヘモリチカ			68
	クレブシエラ		9	9
野外微生物環境変化の指標となる微生物 ¹⁾	牛、豚及び鶏（患畜）由来の大腸菌 ²⁾	201	169	187
	グレセレラ・パラシイス （ヘモフィルス・パラシイス）	11	8	4
	乳房炎由来ストレプトコッカス属菌	61	53	55
合計		360	302	387

1) 対象とする微生物は年度により異なる

2) 令和5年度及び令和6年度は、変異や変遷等の指標となる微生物としても収集
令和4年度までの検査結果は当所ホームページに掲載中

IV その他

1. 令和6年度調査研究発表等

(1) 学術研究発表

発表学会・学術集会及び演題	氏名
第167回日本獣医学会学術集会 (R6.9.10~13)	
PRRSV-1生ワクチンの豚熱生ワクチンの有効性に及ぼす影響の検討	木田萌子、落合絢子、曳地七星、榊基、細田裕子、森崎一葉、一戸夏美、山崎雅人、長坂孝雄、大出水幹男、山下麻依子、山本欣也、(迫田義博)
2020及び2021年度に検出された豚サーコウイルス2型及び豚サーコウイルス3型の野外流行株の遺伝子解析	一戸夏美、木田萌子、榊基、須藤加澄、山本欣也
ニューカッスル病ウイルス及び鶏伝染性気管支炎ウイルスの培養細胞における感染価測定法の検討：発育鶏卵漿尿液の役割とその調製について	菊谷祐斗、落合絢子、小林由佳、石川容子、五藤秀男
日本の豚から分離された <i>Graesserella parasuis</i> の次世代シーケンサーを用いた性状解析	小澤真名緒、川野智、小島明美、岩本聖子
<i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i> におけるMICとディスク法阻止円径の解析	熊川実旺、原田咲、宮澤一枝、首藤江梨奈、細井悠太、松田真理、川西路子、関口秀人
<i>Streptococcus suis</i> におけるMICとディスク法阻止円径の解析	原田咲、熊川実旺、宮澤一枝、首藤江梨奈、細井悠太、松田真理、川西路子、関口秀人
国内の牛由来大腸菌とサルモネラ属菌におけるホスホマイシン耐性状況の調査	細井悠太、川西路子、原田咲、熊川実旺、森谷このみ、首藤江梨奈、宮澤一枝、高岡寿子、松田真理、関口秀人
国内の健康鶏由来第3世代セファロスポリン耐性大腸菌の薬剤感受性と遺伝子性状解析	川西路子、細井悠太、原田咲、森谷このみ、首藤江梨奈、宮澤一枝、高岡寿子、熊川実旺、小澤真名緒、松田真理、関口秀人、(Scott C. Eisenhower)
第24回日本再生医療学会総会 (R7.3.20~22)	
Single cell RNA sequencingを用いたイヌ脂肪由来間葉系幹細胞の高継代マーカーの検討	羽生航、佐藤耕太、(木原孝洋)、(永原俊治)、(能美君人)、(能田健)
第42回日本獣医師会学術学会 (R7.1.24~26)	
病気の犬猫由来コアグラエゼ陽性ブドウ球菌属菌の薬剤耐性モニタリング結果	松田真理、原田咲、熊川実旺、石井智子、細井悠太、川西路子、関口秀人

注：氏名欄 () は所外機関所属者

(2) 誌上発表 (学術研究報告)

発表題名及び発表誌	氏名
Characterization of senescent mesenchymal stem/stromal cells derived from equine bone marrow and the effects of Nanog on the senescent phenotypes (馬骨髄由来老化MSCの特質と老化形質へのNanogの影響) Journal of Veterinary Medical Science, 86(9): 930-937, 2024 https://doi.org/10.1292/jvms.24-0161	Kota Sato, Chiho Kushida, (Nori-hisa Tamura), (Yoshinori Kasashima), (Katsuhiko Arai)
Efficacy of GPE-strain live attenuated vaccine and CP7_E2alf strain recombinant live vaccine (marker vaccine) against Japanese epidemic classical swine fever virus (CSFV) isolated in 2019 and DIVA discrimination ability of marker vaccine (2019年に国内で分離された豚熱ウイルスに対するGPE-株弱毒生ワクチン及びCP7_E2alf株組換え生ワクチン(マーカーワクチン)の有効性とマーカーワクチンのDIVA識別能) Research in Veterinary Science, 2025, 182 https://doi.org/10.1016/j.rvsc.2024.105484	Maiko Yamashita, Shoko Iwamoto, Mariko Ochiai, Kasumi Sudo, Takao Nagasaka, Akito Saito, Takashi Kozasa, Tsutomu Omatsu, Kinuya Yamamoto, (Tetsuya Mizutani)
The analysis of antimicrobial use in the animal sector in Japan from 2011 to 2022 (2011年から2022年における動物分野の抗菌薬使用量の分析) Antibiotics 2024, 13(12), 1204 https://doi.org/10.3390/antibiotics13121204	Yuta Hosoi, Mari Matsuda, Michiko Kawanishi, Saki Harada, Mio Kumakawa, Hideto Sekiguchi, Tetsuo Asai, Tatsuro Sekiya

Establishing tentative Cut-off values for disk diffusion method for <i>Pasteurella multocida</i> and <i>Mannheimia haemolytica</i> from livestock animals in Japan. (日本での家畜由来 <i>Pasteurella multocida</i> 及び <i>Mannheimia haemolytica</i> におけるディスク拡散法のカットオフ値作成) The Journal of Veterinary Medical Science, 87(4):349-355 https://doi.org/10.1292/jvms.24-0474	Mio Kumakawa, Ryoko Akama, Yuta Hosoi, Yukari Hiraoka, Saki Harada, Mari Matsuda, Michiko Kawanishi, Hideo Sekiguchi
Fosfomycin resistance of <i>Escherichia coli</i> and <i>Salmonella</i> spp. among cattle in Japan (日本における牛の大腸菌とサルモネラ属菌のホスホマイシン耐性について) International Journal of Molecular Sciences, 2024 Dec 23;25(24):13723 doi: 10.3390/ijms252413723	Yuta Hosoi, Michiko Kawanishi, Saki Harada, Mio Kumakawa, Mari Matsuda, Hideto Sekiguchi
Determination of antimicrobial resistance mega-plasmid like pESI structures contributing to the spread of <i>Salmonella Schwarzengrund</i> in Japan (日本における <i>Salmonella Schwarzengrund</i> の分布に寄与するpESI様抗菌剤耐性メガプラスミドの構造の特定) Antibiotics, 14(3):288	Manao Ozawa, (Kanakano Ishihara), (Suzuka Someno), (Kaoru Matsui), (Chisato Nakazawa), (Takahiro Abe), (Hayato Harima), (Tsutomu Omatsu), (Eriko Iwabuchi), (Tetsuo Asai)

注：氏名欄 () は所外機関所属者

(3) 誌上発表 (技術普及報告、その他)

発表題名及び発表誌	氏名
2020年度 (令和2年度) JVARM (動物由来薬剤耐性菌モニタリング) 年次報告書 畜産技術 7月号	原田咲
ベクターワクチンを中心とした鶏用遺伝子組換えワクチンの現状と今後 鶏病研究会報 第60巻第2号	落合絢子、(有吉理佳子)、(岡村雅史)、(杉山美樹)、(永野哲司)、(花谷有樹子)
新たに承認された動物用医薬品 (エルーラ) 日本獣医師会雑誌 第77巻第4号, p.207	谷田奈津美
新たに承認された動物用医薬品 (コルトティック) 日本獣医師会雑誌 第77巻第7号, p.346	秋山薫
新たに承認された動物用医薬品 (センベルゴ15mg/mL) 日本獣医師会雑誌 第77巻第7号, p.347	秋山薫
動物分野の取り組み-動向調査、国際協力- 動物用抗菌剤研究会会報 「AMRアクションプラン2023-2027」	川西路子
日本における動物用抗菌剤使用と耐性菌の状況 臨床獣医 8月号特集「薬剤耐性の現状を把握する」	松田真理
新たに承認された動物用医薬品 (IDEXX CSFV エリーザキット) 日本獣医師会雑誌 第77巻8号, p.399-400	木田萌子
JVARM Annual Report 2020 動物医薬品検査所ホームページ https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p3.html	原田咲
新たに承認された動物用医薬品 (スワインテクトAP15-ME) 日本獣医師会雑誌 第77巻10号, p.462	松本幸子
後発動物用医薬品について 家畜診療 72巻2号 (第740号), p.97-98	秋山薫
新たに承認された動物用医薬品 (マイオスフィア PCV ID) 日本獣医師会雑誌 第77巻12号, p.545-546	一戸夏美

注：氏名欄 () は所外機関所属者

(4) その他 (口頭を含む)

発表題名	氏名	講習会名称等
Combined Country presentations on AMR surveillance (sectors and coordination)	細井悠太	Regional Tripartite Antimicrobial Resistance Project “Working Together to Fight Antimicrobial Resistance” (R6.5.8)
National Assay for veterinary vaccines (動物用ワクチンの国家検定)	志賀佑太	韓国APQA主催 動物用医薬品に関するオンライントレーニング (R6.5.22)
Overview of GMP inspection for Veterinary vaccines in Japan (日本における動物用ワクチンのGMP適合性調査の概要)	田村直也	韓国APQA主催 動物用医薬品に関するオンライントレーニング (R6.5.22)
鶏における薬剤耐性菌の動向	細井悠太	鶏疾病特殊講習会 (R6.6.3)
Management of the quality of VMPS in Japan (動物用医薬品(VMPS)の品質維持における日本の取り組み)	小林由佳、小倉亜希	1st Workshop on Substandard and Falsified Veterinary Products (SFVP) and WOAHPilot Veterinary Monitoring and Surveillance System for SFVP (WOAH - VSAFE) for WOAHPocal Points for Veterinary Products and Regulators of Veterinary Medicinal Products in Asia and Pacific (R6.6.12)
One Health/ Multisectoral AMR Surveillance (ワンヘルス・多分野横断的薬剤耐性モニタリングについて)	川西路子	Regional Workshop for WOAHPational Focal Points for Veterinary Laboratories (R6.7.17)
AMR surveillance in food and agriculture sectors	熊川実旺、川西路子	Regional Training on the International FAO Antimicrobial Resistance Monitoring System (InFARM) and IT Platform (FAO) (R6.7.23~26)
養鶏における薬剤耐性の現状	関口秀人	2024年度秋季全国鶏病技術研修会 (R6.8.28)
Indicators and Charts in the AMU Report -Japan (AMU (抗菌剤使用量) 報告書の指標と図表)	松田真理	Institutionalization of Antimicrobial Use (AMU) Data Collection and Reporting (R6.9.4)
薬剤耐性対策アクションプランとJVARMの取組	関口秀人	第44回飼料の安全性に関する検討会 (R6.9.6)
Species level AMU monitoring in Japan	細井悠太	1st Meeting of WOAHElectronic Technical Group on Antimicrobial Use (AMU) Data Collection (R6.9.19)
想定される使用条件でのA型インフルエンザ診断用酵素標識抗体反応キットの検出能力	小林由佳、五藤秀男	第65回全国家畜保健衛生業績発表会 (R6.9.19~20)
動物用医療機器の製造販売承認申請等の手続きについて	谷田奈津美	令和6年度動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器等法講習会 (R6.10.3)
動物用体外診断用医薬品の製造販売承認申請等の手続きについて	谷田奈津美	令和6年度動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器等法講習会 (R6.10.3)
動物用医療機器及び体外診断用医薬品のGMP適合性調査	田村直也	令和6年度動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器等法講習会 (R6.10.3)
動物用医薬品をめぐる最近の事情と、残留に関する規制及び技術について	江口郁	令和6年度第42回全国食肉衛生検査所協議会理化学部会研修会特別講演 (R6.10.4)
動物分野AMRセンターにおけるワンヘルスに関する取組及び研究	熊川実旺	令和6年度家畜衛生講習会 (R6.10.15)
馬用の生物学的製剤の製造状況等	荻窪恭明	2024年馬感染症研究会 (R6.10.22)
愛玩動物×皮膚病 「伴侶動物分野における抗菌剤使用量と薬剤耐性の動向」	松田真理	薬剤耐性対策ミニセミナー (R6.11.20放送)
肉用鶏×大腸菌症「プロイラーにおける大腸菌の薬剤耐性モニタリング」	細井悠太	薬剤耐性対策ミニセミナー (R6.11.25放送)
BRDCワクチンと薬剤耐性対策	荻窪恭明	薬剤耐性対策ミニセミナー (R6.12.9放送)

Validations of AMU monitoring in Japan	細井悠太	2nd Meeting of WOAHA Electronic Technical Group on Antimicrobial Use (AMU) Data Collection (R6.11.26)
①薬剤耐性機構の概要 ②薬剤耐性菌に関する情勢、欧州の魚病細菌モニタリング及びJVARMの紹介	熊川実旺	令和6年度水産分野における薬剤耐性菌に関する技術研修会 (R6.12.13)
動物用医薬品等の製造販売承認申請の手続きについて	秋山薫	第45回動物用医薬品等製造販売管理者講習会 (R7.2.12)
動物用医薬品等のGMP適合性調査について	赤間亮子	第45回動物用医薬品等製造販売管理者講習会 (R7.2.12)
動物用医薬品等の再審査について	平澤緑	第45回動物用医薬品等製造販売管理者講習会 (R7.2.12)
動物用医薬品等の信頼性基準適合性調査について	田村直也	第45回動物用医薬品等製造販売管理者講習会 (R7.2.12)
抗菌薬販売量の報告方法について	細井悠太	3rd Meeting of WOAHA Electronic Technical Group on Antimicrobial Use (AMU) Data Collection (R7.3.4)
動物用医薬品等GLPにおける事例紹介	田村直也、 金原真理子	GLP事例勉強会 (R7.3.12)

注：氏名欄 () は所外機関所属者

2. 令和6年度技術研修

期 間	氏 名	所 属	研 修 ・ 見 学 内 容
R6.6.12	検査担当者等 (34名)	都道府県検査担当者等	令和6年度動物用医薬品危機管理対策に関する薬剤耐性菌の発現状況検査研修会 (講義)
R6.6.13 ~ 6.14	検査担当者等 (15名)	都道府県検査担当者等	令和6年度動物用医薬品危機管理対策に関する薬剤耐性菌の発現状況検査研修会 (実技研修)
R6.6.27 ~ 6.28	検査担当者等 (14名)	都道府県検査担当者等	令和6年度動物用医薬品危機管理対策に関する薬剤耐性菌の発現状況検査研修会 (実技研修)
R6.7.10	検査担当者等 (15名)	府県検査担当者等	令和6年度品質確保検査研修会 (動画等資料の配布及び Web 講義)
R6.7.10 ~ 7.12	検査担当者等 (8名)	府県検査担当者等	令和6年度品質確保検査研修会 (実技研修)
R6.8.26 ~ 8.30	獣医学生 (4名)	鹿児島大学、北里大学、日本獣医生命科学大学、東京農工大学	獣医学生のための実習・インターンシッププログラム
計	90名		

3. 令和6年度見学（主なもの、視察を含む）

（1）国内

期 間	所 属 等	人 数	見 学 内 容
R6.7.25	農林水産省就業体験実習生等	7名	施設見学
R7.8.2	消費・安全局食品安全政策課	3名	施設見学
R6.8.20	農林水産省就業体験実習生等	4名	施設見学
R6.9.25～27	国分寺市立第一中学校2年生	3名	施設見学等
R6.11.5	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所等	6名	施設見学
R7.1.10	薬剤師	1名	施設見学
R7.1.24	獣医系大学学生	1名	施設見学
R7.3.5	農林水産省就業体験実習生等	6名	施設見学
R7.3.14	獣医系大学学生	2名	施設見学
計		33名	

（2）国外

期 間	所 属	人 数	見 学 内 容
R6.6.25	タイ DLD	6名	施設見学
R6.7.17	WOAH・JICA 集団研修	17名	施設見学
R7.1.8	JICA 技術協力プロジェクト	1名	施設見学
計		24名	

4. 外部媒体を使用した広報活動

(1) 活動の概要

当所の業務や役割を広く紹介し、理解の醸成と認知度の向上を図ることを目的として、農林水産省公式 YouTube「BUZZ MAFF」内に「ヤッケン発見！」チャンネルを令和5年度に開設した。同チャンネルでは、開設から令和7年3月までの間に、当所の業務内容に関する動画29本及びショート動画2本を制作し、令和6年度には動画8本の配信を行った。

(2) 令和6年度までに配信した動画

タイトル	再生数*	URL
令和5年度		
【ヤッケン発見】とは？農林水産省で最も知名度が低いといわれる動物医薬品検査所をアピールするシリーズ！	4500	https://www.youtube.com/watch?v=9nedZihsteM&t=1s
マニアックすぎる職場で働くヒロキの叫び	12300	https://www.youtube.com/watch?v=yVrqRotm9SA&t=1s
物置に放置されてる悲しすぎるマスコット候補生に仕事をください	3100	https://www.youtube.com/watch?v=G0aq3NBLcic&t=1s
本当に知られていない？農水省正面玄関で知名度アンケート調査してみた	8200	https://www.youtube.com/watch?v=Mu35sLr9kEc
菌を愛する女性獣医師の出勤からランチまでの道のりに密着	8200	https://www.youtube.com/watch?v=hIGBLV8meLw
農水省で1番間違えられやすいのでネット検索しても全然上位に出てこない名前	5800	https://www.youtube.com/watch?v=dlyUq_w7-Wg
職場の認知度が低すぎるので、もう廊下で踊るしかないと思ひまして	14000	https://www.youtube.com/watch?v=WBA9qo-I7I4
職場の認知度が低すぎてもう廊下で踊るしかない #shorts	9200	https://www.youtube.com/watch?v=FwwiNHZQIK4
新人がタイムアタック！迷路状になった職場から脱出できるのか？	10600	https://www.youtube.com/watch?v=5WtmZohzU7g
タマゴを愛するニワトリ担当獣医師の出勤からランチへの道のりに密着	5300	https://www.youtube.com/watch?v=pDYfwhVIOi8
ここがツライよ3選！動物の薬担当のマニアックな叫び	7100	https://www.youtube.com/watch?v=y1DIdBaa-R0
職場の認知度を上げるには、みんなで踊るのが最善策かと	34600	https://www.youtube.com/watch?v=68PxhkNITqs
長い法律名、専門家は10秒で囁まずに言えるのか？ #shorts	7800	https://www.youtube.com/watch?v=ma4NmL2N8_w
長い法律の名前、専門家集団は10秒以内に囁まずに言えるかチャレンジ	8700	https://www.youtube.com/watch?v=OoENxPggSd8
動物まみれ、現場職員のファッションチェック	5900	https://www.youtube.com/watch?v=DvbYd9auDeU
職場のマスコットが廃棄される危機をどうにかしたい	5700	https://www.youtube.com/watch?v=0Hz2jesz4wY
動物医薬品検査所からのお知らせ	4200	https://www.youtube.com/watch?v=nurb13lTAFo
細胞が好きすぎるワクチン担当女性獣医師のランチへの道のりに密着！	3500	https://www.youtube.com/watch?v=lZLSlr9DO8M&t=1s
大喜利です→「11月は〇〇推進月間。何の月間？」	2000	https://www.youtube.com/watch?v=Xwzf_3McqJY&t=2s
仁義なき廃棄寸前マスコットにオファーが来たので	6900	https://www.youtube.com/watch?v=2i1cO8rYxJU
副大臣、俺と踊ってください！	14200	https://www.youtube.com/watch?v=ScfH7gTx7gg
農水省イチ映えない職場にフォトスポットをつくってみた	3500	https://www.youtube.com/watch?v=tqW2l92IZGs
50音すべての専門用語を言えるのか？獣医学と薬学のサドンデスゲーム	5500	https://www.youtube.com/watch?v=7zXn-UIBjBA&t=9s
令和6年度		
【ご報告】ヒロキの異動と今後の#ヤッケン発見について	6500	https://www.youtube.com/watch?v=lyesN-SJarI
【第2章始動】私たち農林水産省で働く獣医師です	5600	https://www.youtube.com/watch?v=wHi4OLOq73c
新人獣医さんとマニアックな獣医学専門用語早押し対決！	3000	https://www.youtube.com/watch?v=FZZgQ6LJrFc
ヤッケン見学デーはじめます。	2600	https://www.youtube.com/watch?v=s-jsNiKhLSk
【海外出張Vlog】タイで奮闘する農水省若手獣医師の4日間！～前編～(Thailand Business Trip Vlog～Part 1～)	2000	https://www.youtube.com/watch?v=WQ2L-wDTxi4
【海外出張Vlog】タイで奮闘する農水省若手獣医師の4日間！～後編～(Thailand Business Trip Vlog～Part 2～)	1600	https://www.youtube.com/watch?v=SMUSq_jb8T0
【最新AIと告知!】ヤッケン見学デー大好評につき、第2回開催決定!!	1900	https://www.youtube.com/watch?v=kzqD3bQ9r5M
AMRに詳しい職員しか突破できない「私はロボットではありません」	2600	https://www.youtube.com/watch?v=LsryjsIyGNU&t=87s

*: 令和7年9月30日時点、下2桁を四捨五入